

ナイ品物ノ輸入課税價格算定ニハ現實爲替相場ヲ用フル。

三 所謂同級同種品ニハ一般ニ爲替「ダンピング」税力賦課セラレルノテアルカ、今後輸入品カ同級同種品ト認メラレルカ爲ニハ、少クトモ右物品カ加奈陀ノ正常消費量ノ一割以上ヲ供給スルモノテナクテハナラヌ。

三 同級同種品ニ對スル輸入税及爲替補償税賦課ノ基準タル公定爲替相場ハ、過去五ケ年ノ日加爲替相場ノ平均ヲ取り明年一月一日ヨリ一年間百圓ニ付三九・五〇弗ニ引下

ケラレルカ、爾後年々同様過去五ケ年ノ平均ヲ取ル結果、右ハ漸次兩國間ノ現實爲替相場ニ近附クコトトナル。

四 公定價格ハ大部分之ヲ廢止スル。

以上ハ必スシモ我方要求ノ全部ヲ承認シタモノテナイカ、日加兩國經濟及友好關係増進ノ大局ニ立脚シ今同解決ヲ見タノテアツテ、加奈陀側ハ明年一月一日カラ前記ノ措置ヲ實行シ、同時ニ雙方ニ於テ七月設定ノ附加税ヲ撤回スルコトトナツタ次第アル。

六 雜 件

1 出淵大使の南方諸国派遣問題

397 昭和10年3月27日 在英國松平大使より
広田外務大臣宛(電報)

オーストラリア副首相来日に対する答礼として
出淵大使を派遣するにあたっては我が方政
府代表として派遣すべき意見具申

ロンドン 3月27日後発
本省 3月28日前着

第一一二號

貴電第六九號ニ關シ

「レイサム」來訪答禮ノ意味合ヲ以テ出淵大使ヲ濠洲ニ派遣セラルルコトハ本使ニ於テモ極メテ時宜ニ適スル措置ト思考ス唯「レイサム」ノ資格ハ客年貴電第三號ニ徵スルニ濠洲政府代表ナリシニ非サヤト認メラルル處果シテ然ラハ出淵大使ヲ貴大臣ノ個人的代表トスル如キ文句ハ之ヲ避ケ

帝國政府代表トシテ派遣セラルル方一般ノ誤解ヲ防ク上ヨリ云フモ將又答禮ノ意味ヨリ云フモ至當ト存セラル右英國政府ヘ申入ルルニ先立チテ此ノ點御留(意)煩度何分ノ儀至急御回示ヲ請フ

398 昭和10年7月13日 広田外務大臣より
出淵(勝次)大使宛

オーストラリア、ニュージーランドを政府代表として訪問するにあたり両国との親善關係を増進し貿易および交通上の緊密化を図るべき旨訓令

歐一機密第一六二八號

昭和十年七月十三日

特命全權大使 出淵 勝次殿
外務大臣 廣田 弘毅

對濠洲新西蘭親善使節派遣ニ關スル件

昨年濠洲聯邦政府カ副總理外務大臣「レーサム」氏ヲ特使

トシテ本邦ニ派遣シタルニ對シ之カ答禮ノ意味合ヲ以テ特ニ貴大使ヲ本大臣ノ代理トシテ帝國政府ヲ代表シ濠洲聯邦ニ派遣スルコト相成リ又此ノ機會ニ於テ同一ノ資格ヲ以テ新西蘭ヲモ訪問セシムルコト相成タル次第ナリ

帝國政府ノ對外政策ノ要諦ハ既ニ種々ナル機會ニ闡明セル通り不脅威、不侵略ノ主義ヲ現實ニ徹底セシムルト共ニ其ノ最モ關心事タル東亞ノ安定ヲ計リ且各國ト通商文化ノ交易ヲ進メ依テ以テ世界人類ノ福祉康寧ニ貢獻セントスルハ贅言ヲ要セザル處ナルガ貴大使ハ濠洲聯邦並新西蘭ヲ訪問セラルルニ際シテハ兩國ヲシテ右方針ヲ善ク認識セシメ以テ兩國間トノ傳統的親善關係ヲ更ニ増進シ貿易上交通上ノ緊密ナル關係ヲ助長セシムルコトニ御努力相成度尙濠洲聯邦政府ニ對シテハ同國政府ガ「レーサム」外相ヲ特使トシテ本邦ニ派遣シタル好意ニ對シ帝國政府ノ名ニ於テ深甚ノ謝意ヲ表セラレ度

更ニ貴大使ハ濠洲聯邦並新西蘭訪問ノ前後ニ於テ比律賓群島及蘭領印度ニ於テ各公館ノ巡閱ヲセラルルコト相成居ル處右巡閱ニ當リテハ我在外官憲ノ管掌事務萬般ニ付別紙要綱ニ基キ可然指導檢閲セラルル様致度シ

目ハ主要品目ニ對スル協定稅率ノ適用、入國ノ自由、滞在、居住、商工業、不動産取得及課稅ニ關スル最惠國待遇、内國稅ニ關スル内國民待遇等ヲ要求スルニアリ就中主要品目ニ對スル協定稅率ノ實施ハ日濠間片貿易ノ調整上我方ノ最モ重視スルトコロニシテ日濠間三對一ノ貿易割合ヲ根本的ニ是正スルノ不可能ナルハ言ヲ俟タサルモ少ク共「オッタワ」協定ノ許容スル最少限度ニ英濠特惠稅率ト普通稅率トノ開キヲ縮減シ邦品ノ競爭力ヲ増加スルコトハ日濠貿易ノ現狀ヨリ見テ當然ノ要求ナリ日濠通商交渉ハ濠洲側ノ事情ニ因リ遷延ヲ重ネ居ルモ近ク「ライオンス」首相、「ガレット」通商大臣ノ歸濠ヲ見ルヘキヲ以テ訪濠ノ機會ヲ以テ之カ促進ニ付側面的援助ヲ與ヘラルルト共ニ濠洲側ニ於テ本邦羊毛工業カ濠洲羊毛ニ依存スル事實ヲ過大視シ貿易調整ニ關シ誠意ヲ示ササルカ如キ傾向アルニ對シテハ我方カ南阿、亞國其ノ他諸國トノ片貿易調整上不利ヲ忍ビ此等諸國ヨリ羊毛ノ輸入ヲ計リ居ル事實ヲ指摘シ我輸出貿易確保ノ爲必要ナルニ於テハ多少ノ犠牲ヲ忍フモ敢テ意トセサルモノナルコトヲ強調セラレ濠洲側ニ於テ速力ニ公正妥當ノ基礎ニ於テ通

要 綱

一、濠洲官民ノ本邦ニ對スル認識ハ歐洲大戰中ニ於ケル彼我ノ協力ニヨリ將又彼我貿易ノ躍進特ニ濠洲經濟ノ命脈タル羊毛及小麥ノ對日輸出ノ増加ニ伴ヒ漸次改善ヲ見ルニ至リタルハ日濠國交ノ親善増進上慶賀スヘキ現象ニシテ更ニ屢々濠洲新西蘭ヲ訪問セル練習艦隊ニ對スル兩國官民ノ熱誠ナル歡迎アリ此ノ點我方ノ謝意ヲ表スル處ナルモ尙一部ニハ帝國ノ意圖ニ關シ猜疑ノ念ヲ抱有スルモノアルヤニ思考セラルルニ付濠洲官民ニ對シテハ不脅威、不侵略ノ原則ニ基ク帝國ノ國是ヲ腦裡ニ徹底セシメ我方ニ對スル不安ト猜疑ノ念ヲ除去シ其ノ誤解ヲ覺正セサルヘカラス

濠洲官民ノ對日認識是正ハ太平洋不安ノ一端ヲ除去シ對米乃至對英關係ノ改善ニ資スルコロ大ナルヘク太平洋ノ平和安定ヲ祈念スル帝國政府ノ特ニ重視スルコロナリ日濠通商關係ノ調整ニ關シテハ昨年五月「レーサム」外相來訪ノ際本大臣ヨリ通商條約締結ヲ提議シタルニ基キ本年初頭以來村井總領事ニ於テ交渉中ナルカ交渉ノ眼

商上ノ調整ヲナス様誘導セラルルコト肝要ナルヘシ

本邦人ノ入濠ニ關シテハ一九〇四年岩崎領事代理ト時ノ首相「ヒューズ」トノ間ニ紳士協定締結セラレ、學生、商人ニ對シテハ入國手續ヲ簡略ニスルコトニ諒解ナリタルカ帝國政府ハ日濠通商交渉ノ機會ニ於テ最惠國ノ待遇ヲ要求スル方針ナルカ又既ニ合法的ニ入國セル邦人ニ對シ滞在期間ノ制限等ヲ除去セシムルト共ニ邦人ニシテ資力ヲ失ヒタルモノニ對シ直ニ無資力者トシテ追放スルカ如キ過酷ナル措置ヲ撤廢セシムル必要アリ

尙港稅及荷役ニ對スル課稅率引下、遠洋航路船ノ濠洲領海ニ在ルモノニ對シ賦課セラルル消費稅ノ廢止乃至低減等交通通商上ノ障害除去ニ關シテハ此ノ際濠洲側ノ深甚ナル注意ヲ喚起スルヲ要スヘシ

日濠間海底電信ハ英國系東方擴張電社^{電氣社}ノ獨占スル所ニシテ其ノ對日通信料金ノ如キ獨占ニ禍セラレ對英料金ニ對シテハ勿論其ノ他ノ歐米各國ニ對スル料金ヨリモ高率ニシテ日濠通商貿易ノ發展上不便鮮カラス之カ是正ニ關シテハ我方ヨリ屢々申入ヲナシタルコトアルモ獨占ニ妨ケラレ何等改善ヲ見サル狀態ナリ

我遞信省ニ於テハ昭和六年濠洲「アマルガメーラッド、ウアイアレス」社トノ間ニ無線電信連絡協定ヲ締結シ日濠間電信料低減ノ目鼻着キタルモ濠洲内部ノ事情ニ禍セラレ未タ協定實施ニ至ラス我方ヨリ屢々之カ實施方督促シタルモ不得要領ノ儘今日ニ至レルモノナル處日濠間電信料金ノ低減ハ彼我貿易促進上ヨリ云フモ將又相互ノ理解増進上ヨリ云フモ極メテ喫緊ノ事ニ屬スルヲ以テ此ノ機會ニ於テ濠洲聯邦政府ニ對シ速ニ前記協定ノ實施ヲ許容スル様申入レノ要アリト思考ス

尙濠洲聯邦ハ事外交ニ關スル限り英本國ヲ通スルノ建前ヲ堅持シ加奈陀ノ如ク公使交換ニ應スル模様ナキ處右ハ加奈陀ト事情ヲ異ニシ其ノ地理的位置ニ鑑ミ英本國ヲ通スルコトカ最モ有利安全ナリトノ趣旨ニ出テタルモノナルヘキカ日濠間通商關係ノ發展ニ伴ヒ兩國間ニ直接處理スルヲ便トスル幾多ノ外交案件發生スヘキハ論ヲ俟タサルトコロナレハ事ヲ敏活ニ處理スル必要上ヨリ云フモ外交的資格ヲ具備スル代表者ノ交換ハ最モ時宜ニ適スルモノト思考ス最近濠洲聯邦政府ハ駐日通商代表トシテ「ロイド」ヲ任命シ同人ハ近く來任スル筈ナル處更ニ一步ヲ

近比島駐米委員「ゲバラ」カ米國上院ニ於テ爲シタル演說中ニ於テ我「マニラ」駐在總領事ノ言說ナルモノヲ引用シ日本カ比島ニ對シ何等カ領土の野心ヲ有スルカ如キ口吻ヲ洩ラシタル結果米國內ノ反對論者ニ利用セラレ相當反響ヲ捲起シタル事實アリ比島ノ政治家中ニモ獨立後米國自由市場ノ喪失ニ依リ經濟的不安ヲ醸成スヘキヲ危惧シ米國ノ利益ニ迎合シ獨立後ノ經濟的地歩ヲ確保セントスル念願アルハ爭フヘカラス最近米國ノ對比綿布輸出激減シタル結果米國當業者ノ策動熾烈トナリ邦品ニ對スル關稅引上ノ懸念アリタル爲駐米大使ト國務省トノ間ニ關稅据置ヲ條件トシテ日米ノ對比島綿布輸出割當ニ關シ交渉アリタルカ双方ノ主張ニ可ナリノ懸隔アリ妥結ニ至ラス我方トシテハ無暴ナル關稅引上ヲ事前ニ防止スル爲一九三四年度ノ輸出货量ヲ基準トシテ自主的統制ヲ加フルコトニ議纏マリ居レルカ米比經濟關係ノ現狀ヨリスレハ假令獨立實現スルモ比島ハ經濟的二米國ニ依存シ可ナリ其ノ意向ニ聽從セサルヲ得サル次第ナルヲ以テ日比通商關係ノ發展ニ關シテハ常ニ二米國ノ利益トノ衝突ヲ避クル様注意シ適當施策スルニ非サレハ不測ノ損失ヲ招ク惧ア

進メ外交交渉ヲモ擔任シ得ル代表者ノ交換ニ付先方ノ注意ヲ喚起シ其ノ實現ヲ促進スルノ要アリ日濠兩國間ニハ重大ナル政治的問題ナク兩國ノ關係ハ通商ヲ主トスルモノナルヲ以テ濠洲カ我國ト外交代表ヲ交換シ直接折衝スルモ何等不利不安ナカルヘシ

二、新西蘭ニ關シテハ我在外公館ノ存在スルモノナク相互ノ理解増進ニ欠クルトコアルヲ以テ此ノ機會ニ於テ帝國ノ平和的意圖ヲ先方ニ徹底セシメ近年漸増セル貿易關係ノ發展ヲ計ルト共ニ先年山下汽船カ濠新聞貨物輸送ヲ行ヒタルニ對シ濠洲船主ノ使喚ニ依リ波止場人足ノ荷役拒絶ニ遭ヒ新西蘭政府之力調停ヲ拒否セルカ如キ不愉快ナル事態ノ發生ヲ防止スル爲同國政府カ彼我貿易ノ圓滿ナル發展ニ付好意的考慮ヲ加ヘンコトヲ申入ルルヲ要スヘシ

二、比律賓群島ハ新憲法ノ實施ト共ニ漸次獨立ノ形態ヲ整ヘ十年後ニ於テ米本國トノ關係ヲ離脱スルコトニ一應ノ決定ヲ見タルモ米國內ニ於テハ獨立反對ノ氣運相當根強ク獨立問題ノ將來未タ逆睹スヘカラサルモノアル際此等反對論者中ニハ帝國ノ領土の野心ヲ云云スルモノアリ最

リ

比島ノ獨立ハ日米關係ノ將來ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナルカ本邦人中獨立ヲ見越シ無思慮ナル策動ヲナスモノアルヤニ見受ケラルル處右ハ米國ノ獨立反對論者竝米國ノ歡心ヲ買フニ汲々タル比島政治家ニ利用セラレ比島獨立ノ實現ヲ阻害スルノミナラス我對比島貿易ニ惡影響ヲ及ボシ邦人ノ投資企業ヲ危殆ニ導ク惧アリ既ニ比島内ニ於テハ國家主義的氣運擡頭シ「ダヴァオ」土地問題邦人小賣商壓迫問題等相次イテ發生シ邦人ノ經濟的發展ニ對シ不安ノ念ヲ與ヘ居ル際ナルヲ以テ一部不謹慎ナル言動ヲナスモノニ對シテハ嚴ニ戒メ大局ヲ誤マラサル様措置スルノ要アリト認メラル

就テハ此ノ機會ニ於テ比島官民ニ對シ帝國カ同島ニ對シ何等政治的野心ヲ有セサル次第ヲ強調セラルルト共ニ地理的二近接セル關係上兩國民ノ交通繁ク又邦人ノ比島ニ於テ事業ヲ經營スルモノ多ク其ノ資源開發ニ貢獻シ居ル次第ヲ指摘シ日比兩國ノ經濟關係ヲ益々緊密ナラシムルコトハ兩國ノ發達及幸福ノ爲寔ニ望マシキ所以ヲ力說シ比島議會ニ於テ將來此ノ關係ノ圓滿ナル發展ヲ阻害スル

カ如キ立法ヲ見ルカ如キコトナキ様希望スルモノナル旨ヲ申入ルコト然ルヘシ

一、蘭領印度力通商、資源等ノ關係ヨリ我國ニトリ極メテ重要ナル地方ナルコトハ今更言フヲ俟タル處我對蘭印發展ニハ彼我ノ間ニ良好圓滿ナル關係ヲ前提トスルコト特ニ必要ナリ然ルニ從來共和蘭並蘭印官民間ニハ對日恐怖心ヲ抱懷スルモノ少カラサリシ處滿洲事變殊ニ我國ノ國際聯盟脫退ハ頓ニ斯カル傾向ヲ助成シタル感アリ「タラカン」地方ニ於ケル嚴重ナル警戒ノ如キ其ノ表面ニ現ハレタル一例ナルカ更ニ最近日蘭會商ノ休會、海運會商ノ決裂ニ加フルニ新嘉坡ニ於ケル西村某事件等ハ蘭印官民ニ對シ面白カラサル影響ヲ齎シタリ惟フニ蘭印側ノ我方ニ對スル不必要ナル警戒ハ一ニ我方力侵略ノ意圖ヲ有スルヤノ杞憂ニ基クモノナル處我方トシテハ曩ニ和蘭ト紛爭ノ平和的處理ニ關スル仲裁及調停條約ヲ締結シタル根本方針ヲ説明シ蘭印側ノ對日態度ノ是正ヲ計ルト共ニ現地ニ於ケル外務機關ヲ充實シ本省ト呼應シテ工作ヲ完カラシムル要アリ更ニ蘭國政府ノ蘭印植民政策ニ對スル不平其他ニ基因シ蘭印ニ於ケル土民及混血人間ニ國民運動

第二〇號

出淵大使ヨリ

本使馬尼刺^{マニラ}滞在ハ非公式ナリシニ拘ラス米比兩方面ヨリ豫想外ノ歡迎ヲ受ケ多數要人ト接觸ノ機會ヲ得就中「ケソン」トハ連日顔ヲ合せ懇談ノ機ヲ得タルカ同人ハ本使出發ノ前日態々旅宿ニ來訪セルニ付先ツ本使ヨリ當地滞在中新聞記者連ヨリ屢日本ノ脅威云々ニ付質問ヲ受ケタルカ右ニ依レハ比島人ノ一部ニ依然相當誤解アル様思ハルコトヲ指摘シ滿洲事變ノ歴史上海出兵^{上海出兵}ノ始末等ヲ敷衍説明シ日本ノ比島ニ求ムルハ要スルニ good business based on good will ニ過キサルコトヲ告ケ更ニ各般ノ事項ニ付懇談シタルニ大要左ノ通り語レリ

(一)比島獨立ニ關シテハ準備期間短キニ失ストノ議論米國ニアリ右ハ勿論比島人間ニモ行ハレ居ルモ大勢ヨリ見テ延期ハ絕對ニ不可能ニシテ期間ヲ三年乃至五年ニ繰上ケルカ如キコトモ實現ノ可能性乏シク結局現行法通り十年後完全ニ獨立スルコトトナルヘシ九月十七日ノ選舉ニ於テ九十八名ノ國民議會議員ト共ニ自分カ大統領ニ少數派ノ「オスメニヤ」カ副大統領ニ選舉セラルル等ニテ「コンモンウエルス」

近年漸ク熾烈ナラムトシツツアルハ頗ル注意ヲ要スヘキモノナル處一部邦人間ニ於テハ右國民運動ヲ利用操縱セムトスル者無キニ非サルカ如シ。我方トシテハ東洋諸民族ノ國民運動ノ成行ニ對シテハ絶エス注意ヲ怠ルヘキニ非スト雖モ是等諸民族殊ニ蘭印ニ於ケル土民ノ國民運動目的達成ハ前途猶頗ル遼遠ナルモノアルノミナラス、我方ニ於テ蘭印土人ノ此種運動ニ對シテ聊カタリトモ之ヲ支持スルカ如キ疑惑ヲ和蘭側ヲシテ抱カシムルニ於テハ先方ノ神經ヲ刺戟シ却テ兩國關係ヲ惡化セシムル結果ト爲ルヘキヲ以テ此點ニ關シテハ周到ナル注意ヲ要スヘク特ニ此ノ趣旨ヲ在留民ニ徹底セシムルコト肝要ナルヘシ。

399

昭和10年8月3日

在ダバオ金子(豊治)領事代理より
広田外務大臣宛(電報)

出淵大使のマニラ滞在中度々ケソンと会見し独立に向けてのフィリピンの状況を聴取するとともに
良好関係構築に向けての我が方希望表明について

ダバオ 8月3日後発
本省 8月3日後着

成立式ハ十一月十五日舉行ノ豫定ナリ其ノ際ハ米國ヨリ副大統領陸軍長官下院議長其ノ他約三十名ノ上下兩院議員參列スルコトニ確定シ居リ

尙^①日英西其ノ他比島ト關係深キ諸國ヨリ代表者ノ參列ヲ求メ度キ考ニテ既ニ總督ノ同意ヲ得居ルヲ以テ國務省ニ於テ異存無キニ於テハ其ノ内關係國ニ案内ヲ發スルコトトナルヘシ自分カ大統領就任ト共ニ現總督ハ官邸ヲ開渡シ「ハイコンミツシヨナー」トシテ「バギオ」ノ總督別荘ニ居住スル等ニテ多分半年位ハ其ノ儘留任スヘシ新國民議會ノ議長ハ大體多數派ノ現下院議長「パレデス」カ選舉セラルヘキ見込ナルヲ以テ少數派ノ實權者ニシテ比島獨立ニ大ナル貢獻ヲ爲シタル「ソハス」ハ「キリノ」(親米派ノ領袖ニシテ日本人間ニ評判ハナシ)ニ代リ最重要ナル大藏長官ノ地位ニ就カシムル意嚮ナリ

(二)「コンモンウエルス」成立ト共ニ特ニ留意スヘキハ經濟政策ナリ米國ノ自由市場ヲ失フコトトナレハ比島トシテハ確乎タル經濟政策ヲ樹立シ建直ヲ計ル必要アリ彼此苦心シ居ル次第ナルカ差當リノ腹案トシテ米國ニノミ依存スルコト無ク廣ク世界全般殊ニ對日關係ニ着眼シ恒久的政策ヲ練

ル考ナリ來年二月頃開カルヘキ米比經濟會議ニ於テ獨立法
ノ經濟條項ニ重要ナル變更ヲ求ムルカ如キハ不可能ナリト
諦メ居ルト共ニ對世界の經濟關係ヲ決定スル上ニ於テモ米
比ノ特殊關係ニ顧ミ米國ノ諒解ヲ得ルコト必要ナルコト申
ス迄モ無キ次第ナルカ自分トシテハ米比經濟會議ニ臨ムニ
先立ち出來得ル限り日本側ノ對比島經濟方針ヲ承り置キ度
キ考ナリ

極内密ニ御話スル次第ナルカ先般「ルーズヴェルト」大統
領ニ會見ノ際自分ヨリ比島カ米國ノ自由市場ヲ失フ苦痛ヲ
訴ヘ一般民衆ノ使用スル廉價ナル日本綿布ニ對シ關稅ヲ増
收スルカ如キコトハ極メテ困難ナル事情ヲ説明シタルニ大
統領モ同情ノ意ヲ表シ「ハル」長官モ略同意見ナリシカ要
スルニ日本綿布課稅論ハ專ラ米國議會ノ一部ヨリ起リ居ル
樣見受ケラレタリ自分ハ米國側ノ壓迫ニモ拘ラス過日ノ議
會ニ於テ日本綿布稅率引上案ヲ不成立ニ終ラシメタルカ最
終議會ハ九月下旬ヨリ十月中旬迄開會スヘキモ「コンモン
ウエルス」成立ヲ目前ニ控ヘ居ル際斯ル議案ヲ通過セシム
ルカ如キコトハ爲ササル積リナリ(此ノ點比島政治ノ常ト
シテ容易ニ信賴シ難シト存シ爲念本使ヨリ日比經濟關係ノ

ナシト突放シ置キタリ)

(四)華府電報トシテ報道セラレタル參謀總長「マツカーサー」
ノ來比ニ付種々ナル噂傳ヘラレ居ルモ内情ヲ打明ケテ申セ
ハ「コンモンウエルス」成立後比島ハ約一萬人ノ巡警隊ヲ
以テ治安ヲ維持スル考ニテ其ノ編成及訓練ニ付テハ比島ノ
事情ニ精通スル者ノ智慧ヲ借リル要アリ旁同人力近々退職
スル機會ニ自分ノ顧問トシテ招聘シ意見ヲ徵シ度キ考ナル
モ巡警隊ノ教練等ニ直接關與セシムルカ如キコトハ爲ササ
ル積リナリ

(五)「マ」總長ハ「ハイコミツシヨナー」ニ推薦セラルヘシト
ノ噂アルモ同人ハ之ヲ好マス結局顧問トシテ來比スルコト
トナルヘシ

(五)「ダバオ」土地問題ハ厄介ナル問題ニテ自分モ國論ノ手
前苦心シ居レルカ比島人ハ曾テ西班牙領有時代「カソリツ
ク」教會ノ爲土地ヲ捲上ケラレ「タフト」時代多額ノ代償
ヲ拂ヒ其ノ幾分ヲ取戻シタル經緯アリ土地ニ對シ迷信のニ
執着心ヲ有ス從テ日本人カ土地ニ對シ權利ヲ獲得シ而モ其
ノ農業經營力一定地域ニ「コンセントレイト」スルコトニ
反對シ居ル次第ナリ自分トシテハ日本人ノ既得權ハ充分尊

重要性ヲ説キ苟モ日本側ヲ刺戟スルカ如キ措置ハ絕對ニ之
ヲ避クルコト比島ノ將來ノ爲得策ナルヘキコトヲ強ク申入
レ置キタリ)

(三)獨立完成後海軍根據地ノ存續如何ハ米比間ノ協議ニ待ツ
コトトナリ居レルカ獨立後米國カ引續キ根據地ヲ有スルカ
如キハ獨立ノ本義ニ副ハサルノミナラス萬一日米間乃至英
米國ニ開戰ノ際卷添ヲ喰フコトトナリ危險此ノ上ナキ次第
ナレハ自分トシテハ存續ニ絕對反對ニシテ

米國トシテモ之ニハ何等言分ナカルヘシト確信ス將又比島
中立問題ニ付世上幾多ノ議論ヲ耳ニスルモ元來獨立法案中
ニ中立條項ヲ挿入セルハ端的ニ言ヘハ米國上院内ニ比島ハ
獨立後必ス日本ニ征服セラルヘシトノ懸念ヲ懷ク者鮮カラ
サリシ爲彼等ニ氣休メヲ與ヘ法案通過ヲ容易ナラシムル爲
挿入シタル迄ニテ法文ニ在ル通り單ニ大統領ニ中立條約交
涉ノ權限ヲ許與シタル迄ノコトニテ獨立條件トナリ居ル次
第二非ス自分トシテハ何等之ニ重キヲ置カス(新聞記者中
頻リニ中立條約ニ對スル本使ノ意嚮ヲ探ル者アリタルニ付
日本ハ比島ニ對シ好意ニ基ク通商ノ發展ヲ欲スル以外何等
野心ナキヲ以テ中立問題ノ如キハ未タ考慮ニ上セタルコト

重スル考ナルモ將來ハ農業ニ限ラス發展性アル工業、漁業、
海運等ニ付日比兩國人ノ「コーポレイション」ヲ設立スル
コトニ力ヲ用キ度キ意嚮ナリ(本使ヨリ日本人カ「ジヤン
クル」ヲ切開キ「ダバオ」ノ發展ニ貢獻シタルコトハ比島
人トシテ感謝スヘキコトニテ之ヲ排斥スルカ如キハ甚タ其
ノ意ヲ得ス「コンセントレイション」ニ反對ナリト言フモ
倉庫、工場、埠頭ノ關係上右ハ已ムヲ得サル所ナリ「コー
ポレイション」ハ結構ナルモ新憲法ハ外國人ニ四割以上ノ
持分ヲ許サス實現困難ナルヘシト告ケタルニ憲法ノ規定變
更ハ素ヨリ困難ナルモ其ノ邊ニ付テハ何等力便法ナキニア
ラサルヘク何レ篤ト考慮スヘシト答ヘ尙對日輸出品トシテ
如何ナルモノヲ有望視シ居ルヤトノ質問ニ對シ

砂糖⁽⁶⁾ヲ日本ニ輸出シ得サルコトハ承知シ居リ差向キハ麻、
木材、「ココナツト」ヲ入ルル位ナルカ將來ハ豊富ナル鐵礦、
銅、鉛、「クロミヤム」等ノ鑛產物ノ發掘ヲ進メ棉花ノ栽
培ヲモ計リ之ヲ輸出シ度キ考ナリト答ヘタリ)

(六)支那人勞働者ハ米國移民法ニ依リ制限サレ居ルカ早晚比
島法律ニ依リ始末スル要アリ結局「クオータ」制ニ依ル新
移民法ヲ制定センカト考ヘ居レルカ有色人種國タル比島カ

有色人種ヲ排斥スルカ如キ結果トナリテハ面白カラサルニ付割當數ニ關シテハ慎重考慮スル積リナリ(右ニ對シ支那人ハ兎モ角日本人ノ反感ヲ挑發スルカ如キコトナキ様注意セラレ度シト告ケ置キタリ)

「ケソン」トノ數同ノ會談ニ於テ得タル印象ニ依レハ同人ハ日比經濟關係ヲ相當重要視シ居リ且其ノ促進上日比人ノ「コーポレイション」設立ニ重キヲ置キ居ルカ如キモ米國トノ關係上何處迄踏込ンテ我方トノ經濟關係ヲ進メントスル腹ナルヤ其ノ邊ハ今後ノ彼ノ出方如何ヲ見ル外ナシト存ス

尙又少數派ノ實權者タル「ロハス」モ本使ヲ來訪シ懇談スル所アリタルカ其ノ意見ハ「ケソン」ト大同小異ナリ同人ハ大藏長官就任ノ件ハ肯定セサリシモ米比經濟會議ハ結局華府ニ於テ開カルヘク自分ハ「ホウズ、カツチング」法案ニ貢獻シタル關係上比島代表トシテ渡來スルコトナルヘキ旨ヲ漏シ渡米前日本側トノ間ニ出來得ル限りノ懇談ヲ進メ對米、對日關係ノ調節ニ付篤ト研究シ度キ者ナリト述ヘ尙比島ノ對米自由輸出量ノ増加ヲ要望スル聲アルモ自分カ談判シタル際米國側ハ粗糖五十萬噸ヲ主張シタルニ拘ラス

「ウエリントン」ニ廻航シ本使一行ヲ「シドニー」ニ送ルコトニ決定シ居タル如キ次第モアル處歐洲大戰當時ノ關係モアルト共ニ歐米トノ貿易不振ノ際日新聞ノ貿易漸次好調ヲ示シ將來ニ期待スル所鮮カラサルモノアルニ依ルモノト思考セラル就テハ此ノ機會ニ於テ貴大臣ヨリ直接「フオーブス」首相ニ謝電ヲ發セラルルト共ニ東京通信員ヲシテ帝國政府ニ於テ感謝シ居ル意味合ヲ然ル可ク打電セシメラル様御手配相煩度シ

日新貿易ノ前途有望ナルコト御承知ノ通ニシテ本使内地各方面ノ當業者ニ接シテ得タル印象ニ依レハ彼等モ既ニ内々眼ヲ着ケ居ルモノノ如ク又大阪商船ハ從來ノ濠洲經由定期航路ノ外新西蘭トノ間ニ直接航路ヲ開始スルコトニ決定シ近ク公表ノ筈ニテ右ハ新西蘭政府部内ニ多大ノ好感ヲ與ヘ居レリ佛、獨、伊、白ノ各國ハ既ニ「ウエリントン」ニ專任領事ヲ置キ米國ハ同地ニ總領事、「オークランド」ニ領事ヲ駐在セシメ居レリ同地ニハ佛、瑞西ノ專任領事モ駐在シ居レリ新西蘭ハ申ス迄モ無ク國際聯盟ノ一員ニシテ人口少キモ富及文化ノ程度濠洲ヲ凌駕スルモノアリ從テ日新貿易ノ將來、濠新聞ノ對立(此ノ點本使ハ深く印象セシメラ

八十萬噸迄漕キ着ケタル次第ナレハ此ノ上ノ増加ハ望無シト語レリ(「ロハス」ハ本使ノ接觸シタル比島要人中一段傑出シタル人物ト認メラレタルニ付内山新任總領事ノ爲人ヲ告ケ隔意無ク接觸ヲ保ツ様篤ト申入レ置キタリ)

馬尼刺^同ヘ暗送セリ

電信料一、〇〇〇「ペソ」電送アリ度シ

400 昭和10年9月4日 在シドニー村井總領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本ニュージールランド間における貿易の好調
振りから勘案しウエリントンに我が方總領事館を開設すべき旨出淵大使より意見具申

シドニー 9月4日後発
本 省 9月4日後着

第六六號

出淵大使ヨリ

新西蘭ハ往電第六五號ノ通り本使一行ニ對シ多大ノ好意ヲ寄セタルノミナラス偶々濠洲海員罷業ノ爲本使乗船ノ來航一時不可能トナリタル際濠洲側ト協議シ新西蘭巡洋艦ヲ

レタリ)等ニ鑑ミ此ノ際「ウエリントン」ニ總領事館ヲ開設スルコト諸般ノ關係上機宜ニ適スル次第ト認メラルルニ付至急御詮議相成様致度シ

401 昭和10年9月15日 在シドニー村井總領事より
広田外務大臣宛(電報)

出淵大使のオーストラリア滞在中に通商条約締結問題および無線連絡問題につき首相等同
国要人達より意見聴取について

シドニー 9月15日後発
本 省 9月15日後着

第七四號

出淵大使ヨリ

濠洲旅行中首相、外相、遞相ト悠々會談ノ機會ヲ得豫テ御訓示ノ次第ヲ篤ト申入レタリ委細ハ歸朝ノ上申上クヘキモ不取敢左記電報ス

「通商條約締結ノ件ハ村井總領事累次ノ交渉ニ依リ首相外相共ニ其ノ促進ノ必要ヲ認メ居レルカ何分協定ハ議會ノ承認ヲ必要トシ政府部内ノ事情ハ「ガレット」カ本件交

涉ニ全責任ヲ持チ矢面ニ立ツコトヲ絕對必要トスル様見
受ケラル「ガレット」ハ十一月中ニハ歸濠スル趣ナルカ
同人ノ渡歐ノ目的ハ「オタワ」協定ニ若干ノ共通性ヲ認
メシムルト共ニ日本ト同様片貿易ニアル獨佛等ノ諸國ト
ノ間ニモ互惠協定ノ基礎ヲ見出ス使命ヲ有スルモノノ如
シ日濠交渉ノ結果ハ自然的ニ獨佛等ヨリ同様ノ讓歩ヲ要
求セラルル次第ニテ政府トシテモ「ガレット」カ歐洲方
面ニ於テ採リ得タル知識ヲ基礎トスルニアラサレハ交渉
ノ進捗ヲ見難シト爲シ此ノ點充分日本側ニ於テ了承アリ度
旨申シ居レリ（尙濠洲政府筋ノ高關稅政策ノ結果基本産業
ニ打撃ヲ與ヘタル爲之レ以上引上ヲ爲ス意思ナキモ引下ハ
勞働黨ノ反對アリ容易ニアラスト認メ居ル様見受ケラル）
ニ、無線聯絡問題ニ關シテハ首相遞相共ニ至極同感ノ意ヲ表
シタルカ「アマルガメーテッド」社トノ間ニ目下面倒ナ
ル法律問題發生シ訴訟手續ニ進^マスル模様ニテ從テ無線
聯絡解決迄ニハ二年位ノ日子ヲ必要トスル様申シ居レル
カ海底線料金引下ハ倫敦及孟買會議ニ於テ濠洲側ヨリ強
ク主張セル經緯アリ政府ニ於テモ本使ヨリ今回嚴談ヲ受
ケタルコトヲ豫期シ居リ更ニ英本國關係者ト交渉スヘク

附 旅行日誌

前編

一、濠洲聯邦

(一)濠洲上陸

(二)公式訪問

(三)政府當局トノ會談

(イ)外務大臣

(ロ)遞信大臣

(ハ)總理大臣

(ニ)保健大臣

(ホ)國防大臣

(ヘ)州知事

二、^(編注)新西蘭

一、新西蘭上陸

三、公式訪問

三、政府當局トノ會談

(イ)總理大臣

(ロ)大藏大臣

(ハ)商工大臣

遅クトモ六箇月以内甘ク行ケハ年内ニ幾分ノ引下ヲ見ル
コトヲ得ヘシト申シ居レリ

402

昭和10年10月27日 出淵大使より
重光外務次官宛(電報)

南方諸國の訪問を終え帰国について

付 記 作成年月日不明、作成者不明

「南太平洋諸域視察報告」

基隆 10月27日後発

本省 10月27日後着

^(編注)三十日朝下ノ關着同夜富士ニテ出發三十一日午後三時二十
五分東京着

編 注 本電に電報番号はない。

(付 記)

南太平洋諸域視察^(編注)報告

前編 一般事務報告

後編 商務報告

三、比律賓群島

一、マニラ立寄

三、邦人官民代表トノ會談

三、比島政界要人トノ會談

(イ)「ケソン」上院議長

(ロ)「ロハス」氏

四、比島ノ輿論

四、蘭領東印度

一、政府當局ノ態度

三、在留邦人ノ意向

一、濠洲聯邦

(一)濠洲上陸

濠洲聯邦ニ對スル公式訪問ハ九月四日開始シタルカ之ヨリ
先本使一行力新西蘭訪問ノ途次八月十四日ブリスベンニ上
陸スルヤ州知事代理(副官)、州政府代表(首相秘書官)、
聯邦政府代表無任所大臣「ハンター」氏、外務大臣代理外
務次官補「ホヂソン」中佐等ノ出迎ヲ受ケシドニ迄ノ旅
行中州政府ハ特ニ知事専用車ヲ提供シ聯邦政府ハ「ホヂソ

ン」中佐ヲシテ斡旋セシムル等非公式乍ラモ歡待ニ努メタリ尙本使**プリズベーン**ニ上陸ノ際州知事「ウイルソン」氏ハ副官ヲ通シ歡迎ノ書翰ヲ寄セ聯邦首相「ライオンズ」氏ハ「ハンター」無任所大臣ヲ通シ懇篤ナル歡迎ノ電報ヲ寄せタリ本使一行ハ八月十五日早朝**シドニー**着濠洲政府ノ都合ニテ先ツ新西蘭ヲ訪問スルコトトナリ同日午後出帆ノ**マラマ**號ニテ**ウエリントン**ニ向ヒタリ**シドニー**着ノ際州知事代理（副官）州政府代表（首相秘書官）聯邦政府代表國防大臣「パークヒル」氏其ノ他内外官民多數ノ出迎ヲ受ケタリ

(二) 公式訪問

本使一行ハ新西蘭訪問ヲ終ヘ九月三日深更**シドニー**着外務大臣「ピアース」氏、外務次官補「ホヂソン」中佐其ノ他内外官民多數ノ出迎ヲ受ケ同四日**シドニー**發自動車ニテ首都**キャンベラ**ニ赴キタルカ外務大臣「ピアース」氏ハ本使ト同行接伴ノ勞ヲ執リ**キャンベラ**ニ於テハ本使及首藤書記官ハ總督「アイザックス」氏ノ客トナリ四日總督晚餐會（首相各大臣列席）、五日首相**レセプション**及晚餐會（各大臣、兩院議員、政府高官列席）ニ列席シ隨時政府要路ト隔意ナキ接觸ヲ遂ケタルカ「ライオンズ」首相ハ五日晚餐會席上

シメタリ此等各地ニ於テハ州首相主トシテ接伴ニカメタル**メルボルン**ニ於テハ「ピアース」外相外二三ノ州出身大臣聯邦政府ヲ代表シ接伴ノ勞ヲ執リ客年來朝セル「レーサム」氏ハ特ニ本使一行ノ爲盛大ナル**レセプション**ヲ催シタリ亦**シドニー**ニ於テハ國防大臣「パークヒル」氏及保健大臣「ヒューズ」氏（前首相）**プリズベーン**ニ於テハ無任所大臣「ハンター」氏夫々聯邦政府ヲ代表シ接伴ノ勞ヲ執リタリ尙**メルボルン**名譽領事「サイム」氏及**プリズベーン**名譽領事「ロクストン」氏モ夫々熱心ニ斡旋セリ此等各地ニ於テ本使一行ハ首相午餐會、市長歡迎會並商業及工業會議所、**ロータリー**俱樂部、國際協會、日濠協會其ノ他民間諸團體主催ノ茶會、午餐會乃至晚餐會、村井總領事**レセプション**ニ列席スル外工場視察、官民トノ會談等出來得ル限り多方面ニ接觸シ相互諒解親善ニ努メ二十數回ノ演說ヲ試ミ日濠親善、經濟提携、通商障害除去ノ必要ヲ力說シ我外交方針ヲ闡明シタルカ濠洲官民ノ對日理解モ最近彼我官民ノ往來（殊ニ大毎佐藤健之輔氏及賀川豐彦氏ノ講演ハ濠洲官民ニ多大ノ感銘ヲ與ヘタル様感セラレタリ）頻繁トナリ貿易關係ノ緊密化ニ連レ相當増進セル如ク觀取セラレ滿洲

本使歡迎ノ辭ニ於テ帝國政府ノ親善使節派遣ノ好意ヲ謝シ日濠貿易ノ發展ニ言及シ日濠間貿易ハ片貿易ノ關係ニアルモ日本ノ對濠輸出モ逐年増加シ居リ濠洲政府ハ日本品ニ對シ何等差別的待遇ヲナシタルコトナキ旨ヲ力說シ最後ニ大戰中ニ於ケル日本海軍ノ協力ニ對シ聯邦政府ノ名ニ於テ深厚ナル謝意ヲ表スル所アリ本使ハ答辭中ニ於テ通商障害ヲ除去シ公正妥當ノ基礎ニ通商關係ヲ調整スル要アル旨ヲ述ヘ尙屢次ノ練習艦隊訪問ニ際シ濠洲官民ノ與ヘタル熱誠ナル歡迎ニ對シ帝國政府ノ名ニ於テ深甚ナル謝意ヲ表シ置キタリ聯邦政府訪問ヲ終ヘタル新本使一行ハ九月五日夜行ニ**メルボルン**ニ向ヒタルカ「ピアース」外相及**キャンベラ**ニ於ケル歡迎會ニ列席シタル「レーサム」氏ハ一行ト同行セリ

九月六日ヨリ九月二十一日迄約二週間**ヴィクトリア**、**ニューサウスウェールズ**、**クイーンズランド**各州ヲ訪問**メルボルン**、**シドニー**、**プリズベーン**各地ニ於テ本使及首藤書記官ハ州知事ノ客トナリ官民ヨリ多大ノ歡迎ヲ受ケタルカ聯邦政府ハ本使一行ノ爲周到ナル日程ヲ編成シ特ニ「ホヂソン」中佐外職員二名ヲ終始一行ニ隨伴セシメ種々斡旋セ

事變以來ノ世界的對日猜疑ノ念モ濠洲ニ關スル限り別段ノコトモナク寧ロ日本カ大陸政策ニ精魂ヲ傾ケ居ルヲ見テ安堵セルモノノ如ク**メルボルン**ニ於ケル州首相主催午餐會席上、州上院議長「クラーク」氏カ「日本カ北、西ニ發展スル限り濠洲ハ何等異存ナシ」ト公言セル如キ多少露骨ナル表現ナルモ濠洲一般ノ空氣ヲ反映セルモノト感セラレタリ

註、本使一行離濠后九月二十三日議會開會ニ際シ「ピアース」外相「ライオンズ」首相ハ夫々上下兩院ニ於テ本使ノ親善訪問ニ言及シ日濠兩國ノ傳統的親善關係カ今回ノ訪問ニ依リ倍々増進スヘキヲ確信スル旨強調セル趣ナリ

尙濠洲各地ノ新聞ハ本使滯濠中ノ動靜ヲ逐一報道シ多大ノ紙面ヲ割キ本使ノ演說**インタヴュー**、濠洲側代表者ノ歡迎之辭ヲ仔細ニ掲載シ有力新聞ハ夫々論說ヲ掲ケテ本使ニ歡迎ノ意ヲ表スル等極メテ友好態度ヲ示シタルカ就中九月七日**メルボルン**、**アীগス**紙ノ論說ハ土地柄保護論者ノ勢力強キ事實ニ鑑ミ一部有識者ノ公平ナル見解ヲ大膽ニ表明セルモノトシテ注意ニ値スルモノト認メラル其ノ要旨左ノ通

出淵大使ノ來訪ハ同大使ノ言ヲ借りテ云ヘハ單ナル親善訪問ニ過キサルカ其ノ來訪ハ單ナル親善訪問以上ノ意義ヲ有ス、「ライオンズ」首相カ政府ノ歡迎會席上指摘セル如ク濠洲カ他國ノ大使ノ來訪ヲ受クルハ最初ノコトニシテ右ハウエストミンスター、スタチュートニ依リ認メラレ二年前濠洲カ聯盟理事席ヲ獲座スルコトニヨリ一段ト強調セラレタル聯邦ノ國家的資格承認ノ具體的例證ナリ「ライオンズ」首相ハ日濠兩國貿易關係カ必然的ニ緊密ナラサルヘカラスル所以ヲ確認シ貿易關係ノ改善カ兩國間ノ親善増進ニ寄與スヘキコトヲ指摘セルカ濠洲國民ハ國家的地位ノ向上ニ伴ヒ當然之ニ附隨スル責任ヲ認識スルヲ要スヘキ處過去ニ於テ濠洲人ハ自國ヲ以テ自然ノ環境ニ惠マレ外界ト隔離セル特殊ノ地域ト認メ居タルカ英國力海上ノ女王トシテ遠隔ノ屬領ニ對シテモ無條件ニ保護ヲ與ヘ氣儘ニ成長ヲ樂シマセタル時代ニハ此ノ見解モ一理アリタルカ濠洲カ國際社會ノ成員トナレル今日國際間ノ親善ヲ維持スヘキ共通ノ法則ハ之ヲ恪遵セサルヘカラス此ノ點ニ關シテハ吾人ハ日本ノ經驗ニ學ハサルヘカラス日濠兩國ハ共ニ新進國家ナルカ日本ハ世界ノ進歩ニ超然タルコトノ如何ニ困難ナルカヲ体得セ

中政府間ニ訪問交換行ハルルハ日濠兩國國民ノ接觸カ最近頻繁トナリタルコトヲ裏書スルモノニシテ最近日本ニ對スル旅行者ノ興味カ増加シタルハ事實ナルカ此ノ無形ノ貿易ハ日本カ日濠貿易ヲ調節セントスルニ當リ考慮ヲ要スヘキ點ナルヘシ思慮アル日本人カ一般ニ認メ居ル如ク貿易ハ爾ク簡單ニ強制的調節ヲ加ヘ得ルモノニ非ス最近濠洲人カ多數日本ニ旅行シ羊毛ヨリ得タル利益ノ一部ヲ費消シ居ル事實ハ認メサルヘカラス或ル意味ニ於テ貿易ノ不均衡ハ日本ニ利益ヲ齎シ居レリ何トナレハ右ハ濠洲人ノ日本旅行ヲ獎勵スル結果トナリ日本人ヲ一層良ク諒解セシムル效果ヲ齎スモノト云ハサルヘカラス云々ト論シタリ右ハ全ク他愛ナキ議論ナルモシドニ商業會議所會頭カ本使歡迎ノ辭ニ於テ日濠人口ノ差ヲ指摘シ貿易不均衡ハ已ムヲ得スト辯疏シタルト軌ヲ一ニシ濠洲人ノ日濠片貿易ニ對スル關心ヲ示唆スルモノト云フヘシ

(三) 政府當局トノ會談

(イ) 外務大臣

九月四日キヤンベラ訪問ノ途次約五時間外務大臣ト自動車ニ同乗シ諸般ノ問題ニ付腹藏ナク意見ヲ交換セリ先ツ本使

リ濠洲人ハ未タ國際貿易カ本質的ニ互惠のナラサルヘカサル所以ヲ充分理解セス吾人カ生産シ得ル物ヲ何故外國ヨリ輸入スル要アリヤトノ反問乃至吾人ハ何物ニテモ生産シ得ヘシトノ議論ハ皮相的ニ觀察スレハ魅力ヲ有ス然レ共避ケ難キ經濟法則ノ作用ハ濠洲人ヲシテ嫌々々ラ貿易カ一方のタルヲ得サル事實ヲ納得セシメタルカ斯ル事實ヲ不承不承納得スルノミニテハ國際親善ニ貢獻スル所鮮シ

日本ハ濠洲カ貿易上豫想シタル程優遇セサリシ事實ヲ捉ヘ不平ヲ洩ラシ居レルカ右ハ一理アリ一九三四年六月末ニ終ル過去十年間ニ於テ日本ハ濠洲ヨリ一〇、二三二、一六二磅ノ輸入ヲナシタルニ對シ濠洲ハ日本ヨリ僅カニ三八、八六二、九四三^(磅)ノ輸入ヲナセルニ過キス固ヨリ二國間ノ貿易カ實際的ニ平均スルコトハ稀ナルカ不均衡カ如斯甚數且永續的ナル場合ニ於テハ永ク不利ヲ忍ヒ來レル對手國ニ對シ之カ調整ノ爲考慮ヲ加フル余地アリト見ルヲ至當トスヘシ尤モ出淵大使ハ親善使節タル關係上特ニ此ノ點ヲ取上ケテ強調スルコトヲナササルヘシ云々

尙シドニモーニングヘラルド紙ハ九月四日日本使歡迎論說

ヨリ日濠通商交渉力遲々トシテ進捗セサルニ付テハ日本國內ニ漸次不平不滿ノ聲ヲ耳ニスル處何等促進ノ道ナキヤト訊シタルニ對シ外相ハ條約交渉ハ専ラ通商條約大臣「ガレット」カ擔任シ同人力渡歐不在ノ今日促進ノ道ナク聯邦政府トシテハ決シテ日濠間ノ條約關係ヲ等閑ニ附シ居ル次第ニ非ス但日濠交渉ヲ進ムルニ當リテハオツタワ協定ヲ多少緩和シ之ニ伸縮性ヲ與フルト共ニ(濠洲ノ對英輸出増進ノ意圖ヲモ含ムモノト解セラル)日本ト同様片貿易調整ヲ要求シ居ル獨、佛、白諸國トノ通商關係ヲ吟味シ關稅政策ヲ決定シ度意向ナリ日濠間關稅問題ハ日濠兩國ノミニテ取極得ヘシトノ意見アラムモ或ル品目ニ付テハ必然的ニ獨、佛等ヨリ均霑ヲ迫ラルル關係上日濠間ニ取極ヲ爲ス爲ニハ勢ヒ獨、佛等ノ諸國トノ關係ヲ慎重調査スル必要ニ迫ラレ居リ「ガレット」歸濠ノ期日ハ確定セサルモ同人歸濠次第進捗ヲ計ルヘキニ付御諒解アリ度シト答ヘ本使ヨリ濠洲ノ關稅ハ兎角高率ニ過クトノ非難ヲ聞ク處實見如何ト尋ネタルニ先年勞働黨內閣ノ下ニ引上ヲ見タル稅率ヲ現聯立政府ノ下ニ漸次緩和シ來レルカ現內閣(今後少ク共二年存續)ノ存續スル限りハ全般的引上ヲ見ルカ如キコトナカルヘシ但

個々ノ品目ニ付テハ明言シ難シ濠洲國內ノ情勢ヲ見ルニ勞働黨ハ無條件引上ヲ主張シ居リシドニ一ハ土地柄自由貿易論者多キモ**メルボルン**ハ保護論者多ク端のニ云ヘハ日本側ニ於テ余リ騷キ立テラルルニ於テハ保護論者ヲ刺戟シ大局ヲ不利ニ導ク恐レアリ現内閣ハ關稅引上ノ意向ヲ有セサルニ付暫ク之ニ信賴シ靜觀セラルル様希望スト述ヘタリ

註、日濠間貿易調整ニ關スル日本内地ノ空氣ハ大毎ノ英文濠洲號等ニ依リ濠洲一般ニ相當ノ反響ヲ喚起シ**メルボルン**名譽領事「サイム」氏ノ如キモ當業者トノ應酬ニ困シ果テ日本側ノ自重ヲ申立テタル程ナルカ「レーサム」氏モ**ヴィクトリア**州知事晚餐會席上隣席ノ首藤書記官ニ對シ相當不平ヲ漏シタル趣ナリ此種誤解ニ對シテハ右書記官ヨリ隨時我通商貿易ノ現狀ヲ詳細説明シ且濠洲側カ「ガレット」ノ不在ヲ理由ニ通商交渉ヲ遷延スルノ不可ナルヲ説キタルニ大体我方ノ立場ヲ諒解シ「レーサム」氏ノ如キモ交渉遷延ニ對スル日本側ノ不滿ハ尤モナレハ早速促進方政府ニ進言スヘシト述ヘク**イーンズランド**州政府極東貿易委員長「メルボル

ン」教授（近ク州政府ノ命ニ依リ來朝ノ筈）ノ如キハ本件交渉ノ實權ハ商務大臣「ペーヂ」氏（副總理）ノ掌中ニアレハ至急促進方政府ニ勸告スヘシト述ヘタル趣ナリ尤モ聯立内閣部内ノ機微ナル事情モアリ「ガレット」ニ全責任ヲ負ハシメムトスル政府ノ方針モ強チ交渉遷延策トノミ見ルヲ得ザルベシ

次ニ本使ヨリ無線電信聯絡問題ニ言及シ日濠間ノ通商發展相互諒解ヲ増進スル見地ヨリ考フルモ無線聯絡ハ喫緊事ナルカ兩國間ニハ嘗テ我遞信當局ト濠洲側「アマルガメーテッド」社トノ間ニ契約成立セルニ拘ラス濠洲政府ノ反對ニ因リ今以テ實施ノ運ニ至ラス日濠兩國ノ如キ文化ノ進歩セル國ノ間ニ無線聯絡ナキハ文明ニ對スル恥辱ナリ尙海底電信料金ノ如キモ一語四法二十三**チーム**ト云フカ如キ高率ニテ日本内地ニ多大ノ不平アリトテ考慮ヲ求メタルカ外相ハ御話ノ次第八悉ク同感ニシテ聯邦政府ハ海底電信料金引下無線聯絡共ニ希望スル所ナルモ複雑ナル内部的事情モアル次第ナレハ**キヤンベラ**ニ於テ篤ト遞信大臣ニ御話アリ度シト答ヘタリ次ニ本使ヨリ濠洲政府カ今回「ロイド」ヲ日本ニ派遣スルコトトナリタルハ誠ニ結構ナルカ日濠兩國ノ關

係ヨリ云ヘハ單ニ通商事務ヲ處理スルノミナラス大所高所ヨリ外交問題ヲ論議シ得ル代表者ノ交換ヲナスコト適當ナルヘキカト思考ス現ニ加奈陀ノ如キハ濠洲ト同地位ニ在リ乍ラ日米佛三國トノ間ニ公使ヲ交換セル次第ナリ右ニ關シテハ廣田外相ヨリ「レーサム」氏ニ話サレタル次第モアリ貴見如何ト尋ネタルニ外相ハ卒直ニ申セハ濠洲ハ世界ヨリ隔離シ目下ノ處直接外交代表者ヲ派遣スル必要ヲ感セス熟練セル英本國ノ外交機關ヲ利用スル方經濟、能率ノ點ヨリ見テ得策ト思考ス濠洲ニハ外交ニ通曉セル人材モ無ク財政上ノ余裕モ乏シキ次第ナルカ無論將來外交代表交換ノ必要ニ迫ラルルコト必然ノ勢ナレハ今ヨリ準備ノ要アリ從而在東京英國大使ノ指揮監督ノ下ニ書記官ヲ任命シ專ラ濠洲事務ヲ擔任セシメ今日以上ニ日濠間ノ關係ヲ密接ナラシムルト共ニ聯邦外交官ノ養成ニ資スルコト適切ナルヘシト思考シ居レリト答ヘタリ

次ニ本使ヨリ濠洲側ニハ尙幾分對日誤解力潜在スルモノノ如ク思考セラルル處右ハ移民問題、滿洲問題、委任統治地域問題ト關聯スルニ非スヤ日本側ノ態度ヲ卒直ニ述フレハ日本政府ハ移民ヲ歡迎セサル國ニ對シ移民ヲ送ル意

思ナシ滿洲問題ニ付テハ一時世界ノ注意ヲ喚起セルモ其ノ後事態ノ安定ヲ見タルコト御承知ノ通ナリ委任統治地域ノ武裝云々ハ爲ニセントスルモノノ謠言ニ過キス同方面島嶼ノ性質ヨリ考ヘ武裝ノ價值ナキコト外相ノ熟知セラルル所ナルヘシト述ヘタルニ外相ハ移民問題ニ付テハ淡泊ニ申セハ濠洲政府トシテハ常ニ幾分ノ疑念ヲ挾ミ居リタル處貴大使ノ明白ナル言明ニヨリ安心セリ委任統治地域武裝云々ノ風説ニ過キサルコトモ濠洲政府ニ於テ充分承知シ居ル所ナリ滿洲問題ニ付テハ濠洲ハ關係ナク日本ノ爲ス力儘ニ任セ異存ナシ但自分力稍不可解ニ思フハ北支問題ナルカ右ニ關シ御話ヲ承り度シト述ヘタルニ付本使ヨリ熱河事變後北支ニ所謂中立地帶ヲ設クルコトニ兩國軍事當局間ニ協定ヲ見タルカ最近ニ至リ中立地域ニ於テ協定違反ノ事態頻發セル爲我軍事當局ヨリ嚴談シ改メシメタルコトアリ右力恰モ我方ニ於テ北支ニ政治的野心アルカ如キ誤解ヲ與ヘタルカ中立地帶ハ從來ヨリ至ル所ニ存在シ從前關東州及膠州灣租借地ノ周圍ニ中立地域設ケラレ最近ハ上海附近ニモ中立地域ノ設立ヲ見タルカ日本カ支那ニ對シ領土の野心ヲ有セサルコトハ上海事變後數月ナラスシテ一兵ヲ殘サス撤兵セルニ

徴スルモ明ナリ日本ハ東亞ニ於ケル安定勢力タル地位ノ承認ヲ求メコソスレ支那ニ於テ通商上ノ特殊地位ヲ求ムルモノニ非サル旨ヲ説明シ置キタリ次テ本使ヨリ日本政府ニ於テ移民ヲ送ル意思ナキコトハ本使ノ説明セル通ナルカ通商ニ従事スル邦人及其ノ從屬者ノ入國ニ關シ例ハ邦人商社ノ社員カ女中呼寄等ニ多大ノ不便ヲ感シ居ルコトヲ承知シ居リ又最近日本船ニテ聞知シタル所ナルカ日本船カ木曜島ニ着クヤ船員用捲煙草ハ濠洲官憲ニ依リ封印セラレ一人當リ五十本ヲ許可セラルルニ過キス斯ル殘酷ナル規定ハ他ニ類例ナク又領海内航行中及港内碇泊ノ船舶ニ對シ石炭、食糧品其ノ他船内消耗品ニ課税スル趣ナルカ右ノ如キ通商上ノ障害ニ對シ何等改善ノ道ナキヤト質シタルニ外相ハ日本商人及從屬者ノ入國ニ關シ種々規定アルモ今日ニ於テハ出來得ル限り寛大ナル取扱ヲナシ居リ日本側ニ苦情ナシト思考ス船員用煙草ノ問題ハ御尤モノ話ナルカ嘗テ裁判沙汰ニナリ一旦施シタル封印ハ事由ノ如何ヲ問ハス解除スヘカラストノ判決アリ行政的ニ救正手段ヲ講シ得サル次第ナルカ御話ノ次第ハ篤ト考慮シ置クヘシト答ヘタリ

提出スルコトトモナラハ更ニ半ケ年位ノ日子ヲ要スヘシ其ノ結果裁判ニ附サルコトトモナラハ更ニ半ケ年位ノ日子ヲ要スヘキニ付政府力勝利ヲ得テ對外通信管理權ヲ回收スル迄ニハ二ケ年位ハ經過スルモノト豫定セサルヘカラス從テ無線聯絡即時實施ニハ困難アリ内情ニ付種種申上ケ度コトアルモ複雑機微ノ關係ニアレハ御免ヲ蒙リ度政府力成ルヘク速ニ實施ノ意圖ヲ有スルコトハ充分御了承アリ度シ海底電信料金引下ノ件ハ夙ニ其ノ必要ヲ認メ居レルカ東方擴張電信會社ニハ英本國、印度、濠洲資本參加シ居リ料金引下ハ容易ナラス倫敦及**コロンボ**會議等ニ於テモ引下ノ意見ヲ提出シタル次第ナルカ今同貴大使ノ申出ヲ良キ機會ニ再度嚴談ヲ試ミ遅クトモ半年内早ケレハ「クリスマス」以前ニ引下斷行ヲ見ル様最善ノ努力ヲ試ミ度意向ナリト述ヘタリ

(ハ)總理大臣

九月五日遞信大臣退出後「ライオンズ」首相來訪シタルニ付本使ヨリ無電聯絡、海底料金引下、通商交渉促進、日本人優遇等ニ付外相遞相ニ述ヘタル處ヲ反覆説明シタルカ首相ハ關稅政策ニ付テハ自自力責任ノ地位ニ在ル限リ一般

註、「パークヒル」國防大臣ノ本使ニ對スル内話ニ依レハ外相ハ前掲本使トノ談話ノ内容ヲ逐一閣議ニ報告シタル趣ナリ尙使用人入國及船員待遇ノ問題ニ關シテハ客年「レーサム」使節ニ隨行來朝シタル「シドニー」、モーニング、ヘラルド」記者「カトラックス」ニ於テモ直接主管大臣ニ面接事態ノ改善ヲ求メタル趣同人ヨリ内報アリタルカ本使離濠ノ際「ヘラルド」紙ハ本件ヲ取上ケ論評ヲ加ヘ政府ノ善處方ヲ要望セリ

(ロ)遞信大臣

九月五日遞信大臣ハ總督官邸ニ本使ヲ來訪シタルニ付無線電信聯絡及海底電信料金引下ニ付懇談ヲ遂ケタル處遞相ハ「アマルガメーテッド」社認可ノ際時ノ政府當局カ甚タ輕卒ナル態度ニ出テ種々政府ニ不利ナル條件ヲ與ヘ其ノ結果濠洲政府トシテハ國策上重要ナル對外通信管理權ヲ失ヒタル次第ナルカ何トカシテ管理權ヲ回收セント腐心シ「ア」社ト外國トノ通信契約ヲ抑ヘ來レルカ管理權ヲ回收スルニハ先決問題トシテ仲裁手續ノ方法ニ依ラサルヘカラス仲裁手續ニハ約半ケ年ヲ要シ「ア」社カ仲裁ニ反對シ意見書ヲ

的引上ハ斷シテ行ハサル方針ナルカ國內ニハ保護論者多ク場合ニ依リテハ一、二ノ品目ニ限り増徴スルコトナキヲ保シ難シ但如何ナル場合ニ於テモ日本品ニ對スル差別待遇ハ行ハサル所存ニシテ最近流行ノ「クオート」制ニハ絕對反對ナリト言明セリ右會談ノ後首相ハ太平洋問題ニ言及シ自分ハ太平洋ニ於ケル平和維持ノ爲關係國トノ間ニ協定ヲ結フ必要ヲ痛感シ倫敦ヨリ歸濠ノ途次華府ニ於テ大統領ノ客トナリ深更迄懇談ノ際大統領ニ對シ新ナル太平洋協定ヲ提議シタルニ大統領ハ即座ニ贊成シタルニ付自分ヨリ滿洲問題ノ關係上日本ヲ加フルコトニ反對ナキヤト確メタルニ大統領ハ何トテモ「フオーミュラ」ハ作り得ヘク日本ノ加入ハ何等差支ナシト答ヘタル趣内話シ本使ノ意向ヲ採リタルニ付本使ハ太平洋ノ平和確保ハ衷心ヨリ希望スル所ナルモ協定ヲ締結スルコトハ加入國ノ選定等困難アルヘク簡單ニ行カサルヘキカ歸朝ノ上大臣ニ報告スヘシ首相ニ於テモ篤ト研究セラレ何等帝國政府ノ承知ニ入レ度點アラハ何時ニテモ村井總領事ヲ呼出シ政府ニ傳達セシメラルル様致シ度シト輕ク應酬シ置キタリ

(ニ)保健大臣

大戰當時ノ首相ニシテ現保健大臣タル「ヒューズ」氏ハ本使シドニー滯在中「パークヒル」國防大臣ト共ニ聯邦政府ヲ代表シ諸種ノ歡迎會ニ出席シ歡迎演說ヲナス等幹旋ニ努メタル次第モアリ答禮ノ意味合ヲ以テ九月十二日住訪會談シタルカ本使ヨリ端的ニ意見交換ヲ行ヒ度シト前提シ濠洲側ニ於テ誤解ノ惧アル點即「移民問題」日本ノ對支對滿政策ニ委任統治地域防備問題ニ關シ外相ニ對スルト同様説明ヲ加ヘ日本ノ欲スル所ハ濠洲ト提携シ太平洋ノ平和的發展ヲ計ルニアリ貴下カ嘗テ日本ニ反對ノ意見ヲ述ヘラレタルコトヲ承知シ昨日モ三回懇談シタルカ本日更メテ腹藏ナキ意見ヲ承り度シト述ヘタルニ對シ「ヒューズ」氏ハ日本商人ノ入國、待遇ニ關シテハ出來得ル限り寛大ナル取扱ヲナスニ吝ナラス第二點ハ今日何等危惧ヲ有セス日本カ滿洲、支那ニ發展スルハ何等異存ナシ自分ハ元來「リヤリスト」ニシテ一國カ生存上適當ノ方面ニ發展スルコトハ當然ナリト思考シ居リ從而日本ノ大陸發展ニ口ヲ挾ム要ナク貴大使ノ御話ハ自分ノ満足スル所ナリ第三點ハ特ニ自分カ關係シタル問題故卒直ニ申述フレハ自分ハ一九一五年三月倫敦ニ赴キタルカ夫以前ニ英本國ハ自分ニ何等相談ナク赤道以北

併合ト異ラス從而日本カ國際聯盟ヲ脫退スルトモ永久ニ南洋群島ヲ管理スルコト何等差支ナシト語レリ次テ本使ヨリ日本ノ欲スル所ハ日濠間ニ圓滿ナル貿易關係ヲ結フニアリ然ルニ濠洲ノ關稅力高キニ過クル爲日本側ニ不滿アリ今後關稅政策ハ如何ナル傾向ヲ辿ルヘキヤト尋ネタルニ「ヒューズ」氏ハ貴大使ノ見解ハ理由アリ表面ヨリ反對出來サルモ「リヤリスト」タル立場ヨリ一言シタシト前提シ自分ハ嘗テ勞働黨ニ屬シタルモ徵兵令ノ問題ニテ意見衝突シ脫退シタルカ濠洲政局ハ *unhappy* ノ聯立ニ依リ政局ノ安定ヲ保チ居ルモ勞働黨ノ勢力ハ悔ルヘカラス自分ノ公平ニ觀察スル所ニテハ投票力五パーセント勞働黨ニ行ケハ政權ハ再ヒ勞働黨ニ歸スヘシ勞働黨ハ理論ヲ超越シ保護關稅ヲ主張シ居ルヲ以テ將來關稅引上ヲ見スト斷言スルヲ得ス但現内閣ノ存續スル限り關稅引上ヲ見サルヘキコトハ明言シ得ヘシ尙自分カ人種平等案ヲ葬リタルコトニ對シテハ日本側ニ反對アラムモ自分ハ日本ニ對シ尊敬ノ念ヲ有ス華府會議以前ノ英帝國會議ニ於テ加奈陀ヨリ日英同盟廢棄ノ主張出テタル際自分ハ極力之ニ反對シタルモ大勢上已ム無ク廢棄ニ決シタルカ今後共貴大使ノ前記三點ニ對スル御説明ヲ諒

ノ獨領諸島ヲ日本ニ讓ル意味合ノ約束ヲナシタルコトヲ承知シ「ロイド、ジョージ」及ヒ「エトワードグレイ」ニ嚴談シタルカ彼等ハ巧妙ナル言葉ヲ以テ自分ヲ謂ヒ圓メタリ自分ハ濠洲ニ關係深キ諸島ヲ何等相談無クシテ日本ニ與フル意味合ノ約束ヲナシタルハ不都合ト思考シ獨領處分問題ノ起リタル時ニユーギニアヲ領有スル爲軍隊ヲ増派スルコト迄考ヘ居タリ

註、外務大臣「ピヤース」ハ本使ト會談ノ際歐洲大戰勃發後間モナク濠洲ハ赤道南北ノ獨領ヲ占領セムカ爲出兵準備ヲナシ居リタル際千九百十四年十一月二十四日倫敦ヨリ電信ヲ以テ赤道以北ノ占領ハ見合スヘシト訓令シ來リ一時其ノ何カ爲ナルヤヲ知ルニ苦ミタルコトアリト内話シタルコトアリ

自分ハ媾和會議當時獨領ニユーギニヤ^(マヤ)ヲ濠洲ニ與ヘンコトヲ要求シタルモ「ロイド、ジョージ」カ「ウイルソン」ノ領土不割讓論ニ贊成シタル爲不得已撤回セリ激論ノ結果自分ニ満足ヲ與フル爲併合ニ最モ近キフオミユラトシテ「ロイド、ジョージ」ノ秘書「ハンケイ」及「ボナー、ロー」等ヲシテC式委任統治ノ様式ヲ考案セシメタリC式統治ハ

承シ貴大使派遣ノ好意ニ酬ユル爲一層日濠親善ニ努力スル積リナリト述ヘタリ

(ホ)國防大臣

「パークヒル」國防大臣(「ライオンズ」首相遠カラス引退シ「パークヒル」氏之ニ代ルヘシトノ說アリ)ハ本使シドニー滯在中聯邦政府ヲ代表シ種々接伴ノ勞ヲ執リタルニ付特ニ九月十三日往訪謝意ヲ述フルト共ニ首相、外相、遞相ニ對スルト同様説明ヲナシタル處使用人入國及船員待遇問題ハ閣議ニ於ケル外相ノ報告ニ依リ始メテ承知シタルカ船員ニ對スル不當待遇ハ甚タ不都合ナルニ付速力ニ是正ヲ計ル考ナリ關稅ニ關シテハ現政府ハ之以上引上ヲナササル方針ナリト内話セリ

(ヘ)州知事

九月十四日及同二十日ニユウ、サウス、ウェールズ州知事「ボニア、ルーヴエン」氏(「アイザックス」氏ニ代リ近ク總督ニ就任ノ筈)及クインズランド州知事「ウイルソン」氏ト夫々會談シタルカ「ボニア、ルーヴエン」知事ハ近ク總督ニ就任スル次第ナルニ鑑ミ帝國ノ方針ニ付諒解ヲ遂ケ置ク必要アリト認メ一應ノ説明ヲナシタル處知事ハ御話ノ

次第ヲ簡單ニ書キ物トサレ度旨申出タルカ本使ハ本日ハ友人トシテ非公式ニ意見交換ノ意味合ヲ以テ御話シシタル次第ニテ政府ヨリ何等訓令ヲ受ケタル次第ニ非ス但シ自分ハ全責任ヲ以テ申上ケル次第ナレハ記憶ニ便スル爲今一應繰返スヘシトテ要領ヲ反覆説明シ置キタリ「ウイルソン」知事（多年英本國下院議員タリシコトアリ）ハ先年日本ニ旅行シ感想録ヲ友人知己ニ配付シ日本ニ「スウエツテッド、レーバー」ノ存在セサルコト等極メテ友好的ナル筆致ヲ以テ本邦事情ノ紹介ニ努メ居レルカ同知事ニ對シテモ同様説明ヲ加ヘタル處南洋群島防備問題ニ付テハ特ニ興味有リ氣ニ聽取セリ

尙比島獨立後ノ日本政策如何ト尋ネタルニ付日本ハ比島ノ繁榮及通商ノ發展ヲ望ム以外他意ナシト説明シ置キタリ

註、本使**プリズベン**出發當日（九月二十一日）ノ新聞ニ前上院議員「エリオット」カ**メルボルン**ニ於テ聲明ヲ發シ大阪ニ於ケル大毎座談會ニ於テ某實業家カ白濠主義ヲ非難セル事實ヲ引用シ日本ト通商條約ヲ締結スルニハ餘程警戒ヲ要スト述ヘタル趣掲載セラレタルニ付

政府ハ本使一行ノ爲極メテ詳細ナル日程ヲ作成シ特ニ內務大臣「ヤング」氏外職員二名ヲ一行ニ隨行セシメ種々斡旋ノ勞ヲ執ラシメタル外首相專用車ヲ連結シ本使ノ乗用ニ供スル等國賓トシテノ遺憾ナキ待遇ヲ與ヘタリ本使一行ハ八月二十一日**オークランド**ヲ振出二十三日間**ニロトロア**、**ウエリントン**、**クライストチャーチ**、**ティマル**、**ハミティチ**、**ダニーデン**、**インヴァカール**等新西兰北島及南島ノ主要地ヲ巡歴シ市長歡迎會及市民夜會、商業會議所午餐會等ニ列席二十數回ノ演說ヲ試ミ其ノ間勉メテ民間有力者ト接觸シ相互ノ諒解、親善ニ努メタルカ首相始メ各市長、商議會頭等何レモ歡迎ノ辭ニ於テ大戰中ニ於ケル日本海軍ノ協力ニ對シ特ニ謝意ヲ表セリ

註 八月二十九日議會開會式演說ニ於テ「**ゴールウェイ**」總督ハ本使ノ訪問ニ言及シ曰、新親善ヲ強調スル所アリタリ

尙新西兰各地ノ新聞ハ其ノ編輯振極メテ保守的ナルニ拘ラス本使一行ノ動靜ヲ報道スルニ當リテハ勉メテ詳細ヲ期シ本使ノ演說、**インタヴュー**、等仔細

本使ハ新聞ニ對シ帝國ノ移民政策ニ付説明ヲ加ヘ某實業家ノ所說ハ政府國民ノ意向ヲ反映スルモノニ非サルコトヲ明ニシ置キタリ

ニ 新西兰

(一) 新西兰上陸

本使一行ハ八月十五日午後「**マラマ**」號ニテ**シドニー**出發難航ヲ續ケテ同月十九日早朝新西兰首府**ウエリントン**ニ到着シタルカ（英國ヨリ歸任ノ「**フォーブス**」首相ト同船ス）總督代理（副官）政府代表「**ランサム**」土地大臣陸海軍代表者其ノ他ノ出迎ヲ受ケ上陸先ツ港務委員會ノ歡迎式ニ列シ挨拶ヲ交換シ首藤書記官ヲ帶同總督官邸ノ客トナレリ

(二) 公式訪問

總督官邸ニ於テ首相其他ノ訪問ヲ受ケタル後先ツ首相ヲ訪問シ外務大臣ノ「**メッセイヂ**」ヲ手交シ次テ政府ヲ代表セル首相午餐會（各大臣始メ兩院議員、陸海軍、司法、實業界ノ代表百數十名列席）市長歡迎會及茶會、總督晚餐會（各大臣市長政府高官列席）ニ列席シ翌日政府要人ト會見後夜行列車ニテ**オークランド**ニ向ヒタルカ新西兰

ニ報道シ有力紙ハ歡迎ノ辭ヲ呈スル等多大ノ好意ヲ示シタリ

新西兰ノ民情ハ極メテ質朴、保守的ニシテ政局モ安定シ今世紀ニ入りテヨリ兩三回政變アリタルニ過キス労働黨ハ相當勢力アルモ未タ政權ヲ握リタルコトナク假令政權ヲ握ルトスルモ國情自ラ濠洲ト異ル所アルヲ以テ極端ナル保護政策ヲ行フカ如キコトハ困難ナルヘシ一般ノ民度ハ高ク社會施設ノ普及シ居ルコト丁抹ト竝ヒ稱セラレ濠洲人ノ濠洲第一主義ニ反シ英本國ニ對スル親愛、倚賴ノ念相當ニ強ク外國貿易ノ如キモ其ノ七割以上ハ英本國トノ間ニ行ハレ居ル現狀ナリ濠洲トノ關係ハ感情的二甚タ冷淡ナルカ如ク觀取セラレ經濟的二モ最近ハ對立關係ニ在リ濠洲ノ極端ナル保護政策ニ對スル反感強シ

新西兰ハ資源ニ富ミ石炭、鐵等ノ鑛産モ相當豊富ナレト一般ニ工鑛業ハ振ハス官民一般ニ保護政策ニ熱意乏シキカ如ク感セラレ最近失業救済ノ目的ヲ以テ各都市ニ輕工業ノ勃興ヲ見タルモ成績香シカラサル趣ナリ從而新西兰政府トシテハ農產品其他原料品ノ輸出ニ依リ同國經濟

ヲ支フル必要上農產品ノ輸出ニハ特ニ力ヲ注キ居レルカ
英本國トノ貿易モ稍飽和狀態ニ達シ同國經濟ノ發展ノ爲
ニハ新市場開拓ノ必要ニ迫ラレ居リ日本トノ貿易關係増
進ニ頗ル期待ヲ懸ケ居ルモノノ如シ日新聞貿易ハ新西蘭
（九十四年續約）
外國貿易總額ノ二分餘ニ過キス今後ノ發展ニ俟ツ所大ナ
ルモノアリ日新貿易ハ概ネ濠洲ヲ通シテ行ハレ新西蘭ニ
日本商社ノ支店ナク時々出張員ヲ派遣シ居ルニ過キサル
モ近ク山下汽船、大阪商船ノ日新聞直通航路開設ト共ニ
兩國貿易モ發展シ追々我商社ノ支店設置ヲ見ルヘキ情勢
ニ在リ新西蘭一般ニ尙往年ノ廉價粗惡ノ日本品ニ對スル
反感強ク南島方面ニ殊ニ其ノ著敷ヲ見ル次第ナルカ新西
蘭ノ如キ民度高キ國ニ對シテハ特ニ品質ニ注意シ日本品
ノ信用挽回ニ努メサルヘカラス尙同國ト本邦トノ連絡ハ
極メテ不充分ニシテ本使旅行中ニモ頻リニ當業者ヨリ取
引照會ニ接シ領事館ノ設置ヲ要望セラレタルカ我領事館
ノ設置ハ同國官民一致ノ希望トモ稱スヘク現在ノ如ク在
シドニー總領事館ノ管轄ニ委スルコトハ結局無意義ニシ
テ館員ノ出張等モ容易ナラサル實情ニ於テハ政府筋トノ
連絡モ不可能ニシテ日新貿易ノ發展上遺憾尠カラス速カ

羊毛ノ如キ無稅ナルカ新西蘭モ農業國タル關係上保護政策
ニ轉向スル理由ナク從而今後共關稅引上ヲ見ルヘキ謂レナ
シト思考セラルル處貴見如何ト訊シタルニ首相ハ無線連絡
ハ主管省ヲシテ研究セシメタル上御返事スヘク關稅ニ付テ
ハ約束出來サルモ日本品ニ對シ高關稅ヲ課スルカ如キコト
ハ念頭ニ上セ居ラスト答ヘタリ次ニ本使ヨリ日本政府ニ於
テハ新西蘭トノ關係ニ重キヲ置キ領事館設置ノ案アリ未タ
大藏省ノ同意ヲ得居ラサルカ自省力實見セル處此ノ際成ル
ヘク速カニ開クコト急務ト思考シ歸朝ノ上進言スル所存ナ
ルカ成否ノ程ハ明言シ難キモ開設ハ時ノ問題ナリト思考ス
日新聞經濟關係ノ發展ノ爲ニハ貴國ニ於テモ適當ノ人物ヲ
日本ニ派遣スル要アルヘキ處濠洲政府ハ九月初旬「トレ
ドコミツショナー」ヲ派遣スルコトトナリ居リ貴國モ成ル
ヘクハ此ノ種專門家ヲ派遣セララルコトヲ希望ス尙自分ハ
親善使節トシテ貴國ヲ訪問朝野ヨリ多大ノ歡迎ヲ受ケ居レ
ルカ別段答禮ヲ迫マル趣旨ニ非サルモ適當ナル人物ヲ政府
代表トシテ日本ニ派遣シ現下ノ我國情、產業ノ發展振ヲ視
察セシメラルルコトトモナラハ日本朝野モ出來得ル限り便
宜ヲ計ルヘシ此ノ點御考慮アリ度シト述ヘタルニ首相ハ逐

ニウエリントンニ總領事館ヲ開設スル要アリト思考ス尙
新西蘭ニハウエリントンニ白耳義、支那、伊太利等ノ本
任領事米國、獨逸ノ本任總領事駐在シオークランドニ佛
蘭西、米國、瑞西等ノ本任領事駐在シ居レリ

(三) 政府當局トノ會談

(イ) 總理大臣

「フオーブス」首相トハ「マラム」號ニ同船シタルモ難航
ノ爲親敷會談ノ機ヲ得サリシカ八月二十日ウエリントンニ
於テ始メテ懇談ノ機會ヲ得先ツ本使ヨリ日新貿易ハ目下ノ
處ニ千萬圓程度ニテ新西蘭貿易總額ノ二分餘ニ過キサルモ
本邦羊毛工業ノ發展ニ鑑ミ取引施設ノ改善ト共ニ新西蘭產
羊毛ノ對日輸出モ増加スヘク期待セラレ居ル折柄本邦當業
者中ニハ日新聞電報料金カ東方擴張電信會社ノ獨占利益ニ
妨ケラレ頗ル高率ニテ通商ノ發展、相互ノ諒解ヲ阻害スル
モノアルヲ遺憾トスル者多シ又東半球ノ文化國タル日新兩
國間ニ無線聯絡ナキハ恥辱ナリトテ通信ノ改善ヲ要望シ次
ニ世界各國共關稅障壁ヲ設ケ互ニ排擠スル風アル今日自分
ノ見ル所ニテハ新西蘭ノ關稅政策ハ頗ル穩便ナリ（濠洲ニ
比シ七、八割低率ナル由）日本ハ自由通商ヲ根本方針トシ

一同感ノ意ヲ表シ目下財政困難ノ際ナレハ篤ト詮議ヲ遂ケ
度シト一應ノ返事ヲナシタリ尙本使離新ノ當日「フオーブ
ス」首相ニ會見セルモ閣員列席シ居タル爲單ニ挨拶ニ留メ
タルカ「ヤング」內務大臣ヲ通シ首相ノ意向ヲ更ニ確メタ
ル處無線聯絡ハ主義上贊成ナルモ實行ニ移スニハ技術上ノ
困難アリ未タ議纏マラス「トレード、コミツショナー」派
遣ノ件ハ（議會開院式ニ於ケル總督演說中ニ歐米諸國ニ派
遣スルニ決シタル旨記載セラル）最初上海ニ駐在セシムル
案ナリシモ本使ノ訪問等ニ關聯シ更ニ案ヲ練リ直シタル結
果東京ニ駐在セシムル案有力トナリツツアルモ經費ノ關係
モアリ明言シ難シ親善使節派遣ノ件ハ「フオーブス」首
相ニ於テモ乘氣トナリ政府代表ニ二三ノ有力實業家ヲ加
ヘ成ルヘク早キ機會ニ實現シ度シト申居ル旨回答アリタ
リ

(ロ) 大藏大臣

八月二十日前首相ニシテ政府部内ニ重キヲナス「コーツ」
藏相ト會談シ首相ニ對スルト同様ノ話合ヲ繰返シタル處
無線聯絡ニハ一同感ノ意ヲ表シ早速遞信大臣ヲ席ニ招キ評
議シタルカ同大臣モ詳細ナル事情ヲ承知セス後日ノ研究

ニ俟ツコトトセリ關稅政策ニ關シテハ藏相ハ他國ニ於ケルカ如キ高關稅又ハ「クオータ」制ヲ採用スル意思ナシ「トレードコミッション」派遣ニハ財政上ノ困難アリト答ヘ親善使節派遣ノ件ハ至極同感ニテ適當ナル人物ヲ派遣シ進歩セル日本ノ國情ニ接セシメ度實現方努力スヘシト述ヘタリ

註、無線聯絡ニ關シテハ隨員ヲシテ事務當局ニ付意向ヲ探ラシメタル處新西蘭ハ現在**フィジー**其ノ他二、三ノ南洋諸島ト無線通信ヲ行ヒ居ルニ過キス無線電話ハ濠洲トノ間ニ開通シ居リ濠洲ヲ通シ倫敦トモ聯絡シ居レリ外國電信ハ凡テ東方擴張電信及太平洋海底電信ヲ通シ歐米ト聯絡シ居リ目下ノ處外國ト無線通信ヲ行フ意思ナク新西蘭ハ傳統的ニ英國系海底電信トノ衝突ヲ避クル方針ニテ日本トノ無線聯絡モ考ヘ居ラサルコト判明セリ本件ニ關シテハ本使南島各地旅行中商業會議所會頭等ニモ提言シタルカ聯合商業會議所會頭ハ本件ヲ商議聯合會ニ於テ審議スヘキコトヲ約シタリ

(ハ)商工大臣

スヲ提供スルコトナレハ新西蘭側トシテハ多大ノ利益ヲ受クルコトナリ又大阪商船會社トシテモ必スヤ相當ノ積荷ヲ獲得シ得ヘシ本件ハ自分ノ最も重要視スル所ニシテ若シ實行セラルルニ於テハ新西蘭政府トシテハ今日具體的ニ云ヘサルモ極力援助ヲ與フル考ナリ

三 比律賓群島

(一)マニラ立寄

本使一行**マニラ**立寄ハ全然非公式ナルニ顧ミ訓令ノ趣旨ヲ体シ出來得ル限り現地ノ實狀ヲ調査研究スルコトヲ主眼トスル所存ナリシカ七月二十五日**マニラ**到着ノ際「マローフィー」總督代理「ガーフィンクル」少佐、「パーカー」駐屯軍司令官代理「ホーン」大尉、「ケソン」上院議長代理「ヘスウス」氏等出迎ヘ上陸後「ヘイデン」副總督特ニ來訪スル所アリタリ

本使一行ハ同夜在留邦人歡迎晚餐會ニ列シ翌日ヨリハ總領事作成ノ日程ニ從ヒ「マローフィー」總督「パーカー」駐屯軍司令官「ケソン」上院議長ヲ訪問シ七月三十日**マニラ**出發ニ至ル迄連日米比官民トノ交歡、非公式會談ニ寧日ナキ有様ニテ總督午餐會(陸海軍司令官、上下兩院

時間ノ都合上商工大臣ニハ首藤書記官ヲシテ代テ會談セシメタルカ同大臣ハ同官ニ對シ左ノ通内話セル趣ナリ

兩國間ノ貿易ハ其ノ額未タ大ナラサルモ近年漸次増進シ又輸出入略均衡セル等順調ナル發展ヲ見ツツアルハ自分ノ満足スル所ニシテ今日國內ニ於テ日本品ニ對シテ何等ノ議論モ起リ居ラス新西蘭政府ノ關稅政策ハ他ノ自治領ニ比シ極メテ穩健ニシテ又其ノ方針ヲ持續スル積リナルカ今後海運ノ改善ヲ計リ、羊毛、肉類其ノ他ノ食料品ノ對日輸出ヲ増進シ以テ彼我貿易關係ヲ益々緊密ナラシメ度希望ナリ尙特ニ此ノ際自分ノ希望スル所ハ近ク實行セラルヘキ大阪商船會社ノ定期航路開設ノ發表ヲ一日モ速ニセラレ度コト及右定期航路ハ新西蘭ヨリ復航ノ途中新嘉坡立寄ノコトトセラレ度コトナリ日新直通定期航路開設ハ新西蘭官民ノ豫テヨリ最も重要視セル所ナルヲ以テ成ルヘク速ニ右計畫ヲ發表セラルル様切ニ盡力ヲ希望ス又新嘉坡寄港ノ件ハ新西蘭ノ對印輸出ノ重要性及新嘉坡ニ於テ對地中海方面輸出ノ積替ノ問題ニ關シ今日不便ヲ感シツツアル折柄ナレハ若シ大阪商船ニ於テ右ノ**サービ**

議長、其ノ他比島官民及邦人代表列席)木村總領事**レセフション**、加特力大僧正午餐會、英國總領事茶會、軍司令官晚餐會、「スミス」師團長午餐會「ケソン」議長晚餐會(比島政府各部長官陸海軍將星、各國領事、上下兩院議員其ノ他官民百余名出席)「オスメニヤ」氏茶會「ケソン」議長茶會等ニ列シタリ尙其ノ間前後二回邦人代表者ノ座談會ニ臨席シ親シク現地ノ實狀ヲ聽取シ且比島側ノ需ニ應シ隨時「ケソン」議長「オスメニヤ」氏(少數派首領)「ロハス」氏(オスメニヤ派領袖)ト隔意ナキ懇談ヲ遂ケタルカ本使ノ使命ニ鑑ミ總督始メ政府各部長官トノ會談ハ成ルベク深入リセサルコトニ努メ尙「ケソン」議長主催晚餐會ニ於テハ双方協議ノ上儀禮的挨拶ノ交換ニ止メタリ

(二)邦人官民代表トノ會談

本使「マニラ」滞在中木村總領事始メ在留邦人有力量ヲ招致シ比島獨立ノ將來日比經濟提携ニ付意見ヲ需メタルカ此等ノ意見ヲ綜合スルニ比島ニ於テハ兩三年來獨立氣運相當濃厚ニシテ指導階級中ニハ比島ノ經濟、國防ニ付不安ヲ抱クモノアル模様ナルモ民衆ハ獨立熱ニ酔ヒ居

ル現状ナルヲ以テ獨立問題ノ逆轉ハ豫想シ得ヘカラス指導者中ニハ眞ニ比島經濟ノ將來ニ付確固タル認識ヲ有スルモノナク只暗中摸索ノ狀態ニテ來年初頭開カルヘキ米比經濟會議ニ一縷ノ望ヲ囑シ居レルカ一方民衆ノ獨立氣運ニ押サレ外國人漁業、商業取締案等前後ノ辨ナク只管國民意識ニノミ依リテ動ケル風アリ比島人ハ一般ニ^(マ)情ニシテ自然ノ恩惠ニ慣レ貯蓄心、企業心ニ乏シク農事改良ノ如キモ殆ント之ヲ顧ミス此ノ儘ニテハ農商漁業等日本人ニ支配サルヘキ運命ニ在リ外人土地所有禁止等國民主義ノ發揚ニ餘念無キ如キモ比島人ニ任セテ產業ノ勃興スヘシトハ何人モ考ヘ得サル所ニシテ今後比島カ經濟的立直ヲ行フ爲ニハ勢ヒ外國ノ援助ニ俟タルヘカラス只澎湃タル國民主義ノ氣運ニ如何ニ調和セシムヘキカカ今後ノ重要問題ナルカ獨立ヲ控エ一^(珠)沫ノ不安ヲ抱キ居ル比島指導者ニ對シ種々ナル政治的策動ニ依リ之ヲ刺戟スルカ如キハ極力之ヲ避ケサルヘカラス最近「ラモス」ノ日本ニ於ケル策動、海運丸事件、臺灣軍參謀ノ名ヲ以テ配布セラレタル「ケソン」反對ノ檄文等比島側ヲ刺戟スルモノ少カラス在留民中思慮ナキ者ハ亞細亞主義ヲ曲解シ

スルノ要アリ

尙比島政治ノ將來ハ結局「デイクテーターシップ」ニ轉化スヘシトノ説有力ニシテ米國ニ範ヲ取レル大統領制度カ中南米殊ニ「キューバ」ニ於テ失敗シ結局獨裁反亂ヲ繰返シ居ルハ比島政治ノ將來ヲ示唆スルモノナリトノ見解廣ク行ハレ居レリ尙比島政治家中ニハ内心獨立後國際競爭ノ困難ナルヲ察知シ内政上完全ナル獨立ヲ得レハ通商、國防共ニ米國ニ賴ラントシテ種々腐心シ居ルモノアリ、今後比島政情ハ極メテ微妙ナル動キヲ示スヘク之ニ處スル帝國ノ方針ハ前述ノ如クカメテ政治的策謀ヲ避クルト共ニ國民意識ト調和スル方法ニテ比島產業ノ發達ヲ助成シ豐富ナル天然資源ノ開發ヲ計リ漸次比島經濟ヲシテ帝國ニ依存セシムル様誘導スルコト然ルヘシ本使ハ此ノ見地ヨリ木村總領事及後任内山總領事ニ對シ此ノ上共不謹慎ナル言動ヲ抑壓スルト共ニ日比經濟關係ノ緊密化ヲ計ル爲在留邦人ト常ニ研究討議シ隨時比島政界有力者ニ助言ヲ與フル等帝國カ比島ノ獨立、繁榮、日比經濟關係ノ發展ヲ計ル以外他意ナキコトヲ充分先方ニ徹底スル様盡力スヘキ旨説示シタルカ邦人晚餐會席上ニ於テモ特

種々不謹慎ナル言動ヲナスモノアルカ帝國トシテハ比島ノ獨立ヲ完成セシメ米國ノ圓滿ナル退却ヲ促進スル見地ヨリ隱忍自重専ラ日比經濟關係ヲ密接ニスルニ努メ苟モ政治的野心ヲ仄カスカ如キコトアルヘカラス比島政情ハ相當不安ニシテ「サクダリスト」ノ綱領ハ農民ニ「アピール」シ勢力侮ルヘカラス都市ニ於テモ智識階級ノ失業増加ニ加フルニ今後米國ノ自由市場力制限セラルル曉ニ於テハ勢ヒ不相應ニ高キ現在ノ生活程度ヲ引下クル必要ニ迫マラルヘク假令獨立問題ガ順調ニ進展ストスルモ政治的經濟的危機ノ解消ハ容易ノコトニ非ス「ケソン」カ新政府組織ニ當リ「オスメニヤ」トノ連繫ヲ策シタルハ臆テ來ルヘキ經濟的危機ニ對スル責任ノ一半ヲ反對派ニ轉嫁スル策謀ト見ラレ居レリ

比島ノ指導者ハ米比經濟會議ニ全力ヲ注ク一面將來ノ經濟國策上對日關係ヲ重視シ新憲法ト抵觸セサル方法ニ依リ經濟的提携ヲ欲シ居ル模様ナルカ比島新憲法ハ外人投資ニ制限ヲ加ヘ居レルヲ以テ今後鑛物資源（現在九割以上米國資本）ノ開發、農業ノ發展助成ニ付テハ隨時比島側ト接觸ヲ保チ日本ノ資本技術ヲ誘致スヘキ辦法ヲ考究

ニ此ノ點ヲ指摘シ優越感ヲ去リ無責任ナル言動ヲ慎シムヘキ旨ヲ強調シ置キタリ

(三) 比島政界要人トノ會談

(イ) 「ケソン」上院議長

「ケソン」議長トハ本使「マニラ」滯在中屢々會談ノ機ヲ得タルカ同氏ハ本使ニ對シ比島**コンモンウェルス**樹立后重要ナル政策ハ經濟政策ナルカ米國ノ自由市場喪失后確固タル經濟政策樹立ノ必要ニ迫ラルヘキ處差シ向決定シ居ル腹案ハ從來専ラ米國ニ依存セル比島經濟ヲ再^(マ)研討シ對世界關係就中比島ニ取り重要ナル對日本關係ニ重點ヲ置キ政策ヲ決定シ度考ナリ自分ハ先般渡米ノ際ニモ大統領ニ對シ比島カ米國ノ自由市場ヲ失ヒ經濟上困難ニ逢着セル際一般民衆ノ需要スル廉價ナル日本綿布ニ増稅スルコトハ徒ニ國民ノ負擔ヲ増加スル結果トナルヘキニ付増稅ハ困難ナリト述ヘタルニ大統領モ同情ノ意ヲ表シタルカ「ハル」長官モ同意見ニテ日本綿布増稅論ハ議會一部ノ主張ニシテ行政部トシテハ、贊同セルモノニアラザルコトヲ確メ得タリ米比經濟關係ヲ調節スル爲比島又ハ米國ニ於テ來年初頭經濟會議開催ノ豫定ナルカ本會議ニ

於テ獨立法案ニ規定セル砂糖若クハ椰子油、**コーデーゲ**ノ自由輸出货量ヲ増加スルカ如キハ米國ノ現狀ニ鑑ミ不可能ナリト諦メ居レルカ其ノ結果比島ノ苦痛ハ大ナルモアルモ永遠ノ經濟政策ヲ確立スルニハ良キ機會ナリ米比間ニハ原則的ニ何等カノ協定ヲ見ルヘキカT、M獨立法ノ經濟條項ヲ變更スルカ如キコトハ到底望ムヘカラス他面諸外國トノ經濟關係ヲ定ムルニハ或程度迄米國トノ諒解ヲ必要トスヘキカ自分トシテハ米比經濟會議開催前ニ或ル程度迄日本側ノ對比島方針ヲ承知シ度思ヒ居レリ

日本綿布ニ對スル稅率引上ニ關シテハ米國側ヨリ相當ノ壓迫アルモ前回議會ニ於テハ之ヲ握リ潰シタルカ最終議會（九月下旬ヨリ十月中旬迄）ハ**コンモンウェルス**樹立ヲ目前ニ控ヘ關稅案ヲ議スルカ如キハ面白カラス上提スルモ別段審議ヲナササル方針ナリト述ヘタリ本使ヨリ新任内山總領事ハ華府、紐育、**シヤトル**ニ歷任シ米國ノ事情ニ精通シ居ル人物ニテ大阪方面最近ノ空氣ニモ觸レ居ルヲ以テ米比經濟會議開催ニ先立チ相談事アラハ打明ケテ懇談セラレ度日本側トシテハ出來得ル限り比島ノ困難

サル考ナリ（新聞記者カ頻リニ中立條約ニ對スル日本ノ意向ヲ探リタルニ付本使ハ日本ノ比島ニ向ヒ欲スル所ハ相互經濟關係ノ發展ニ在リ中立問題ノ如キハ念頭ニ上セタルコトナシト突放シ置キタルカ内山總領事ニ對シテモ本件機微ナル關係ニ鑑ミ之ニ絕對觸レサル様注意シ置キタリ）次ニ華府電報トシテ參謀總長「マツカーサー」來比ニ付種種ナル噂傳ヘラレ居ルモ内情ヲ打開ケテ申セハ**コンモンウェルス**樹立后比島ノ治安ハ約一萬ノ巡警隊ヲ以テ之ニ當ラシムル方針ナルカ其ノ編成及訓練ニ付テハ比島事情ニ通スルモノノ智慧ヲ借ル必要アリ同人力退職ノ機會ニ自分ノ顧問ニ招キ種種意見ヲ徵スル考ナルカ巡警隊ノ教練等ニ關與スルカ如キコトハナサシメサル積リナリ又「マ」ハ現總督ニ代リ**ハイコミツシヨナー**タルヘシトノ噂アルモ同人ハ之ヲ好マス結局顧問トシテ來比スルコトナルヘシ

ダヴァオ土地問題ハ至極厄介ナル問題ニテ自分トシテハ國論ノ手前腐心シ居レリ比島人ハ嘗テ西班牙時代加特力教徒ノ爲土地ヲ取り上ケラレ「タフト」總督ノ盡力ニ依リ多額ノ金ヲ納メテ幾分ヲ取り戻シタル苦キ經驗ヲ有ス

ナル立場ニ對シ考慮ヲ拂フコト勿論ト思考スト答ヘ綿布關稅引上案ヲ握リ潰サルル方針ハ極メテ賢明ノ策ト思考ス米比關係ノ重要ナルハ元ヨリナルカ日比經濟關係ノ將來有望ナルニ鑑ミ苟モ日本側ヲ刺戟スルカ如キコトハ避ケラルコト比島ノ爲得策ナルヘシト附言シ置キタリ次ニ「ケソン」氏ハ獨立完成後ノ海軍根據地存續ニ付テハ米比間ニ將來話合行ハルコトナリ居ルカ獨立完成後引續キ米國カ根據地ヲ存續スルコトハ獨立ノ本義ニ副ハサルノミナラス萬一ニモ米國ト日本又ハ英國トノ間ニ開戦ヲ見シカ比島ハ捲キ添ヘテ喰フコトナリ危險此ノ上ナキニ付獨立完成後ニ海軍施設ヲ存續スルコトハ自分トシテ絕對反對スル積リニテ恐ラク米國トシテモ何等異存ナカルヘシト確信ス又比島中立問題ニ付世上幾多ノ議論ヲ耳ニスルモ元來獨立法案中ニ中立條項ヲ挿入シタルハ端的ニ云ヘハ上院内ニ比島獨立ノ曉ハ日本ニ征服セラルヘシトノ懸念ヲ抱クモノ鮮カラサリシ爲彼等ニ氣休メラハ與ヘ法案通過ヲ容易ナラシムルニ出テタル次第ナルカ法文ニアル通單ニ大統領ニ中立條約交渉ノ權限ヲ附與シタル迄ニテ獨立ノ條件ニ非ス自分トシテハ之ニ重點ヲ置カ

比島ハ日本人カ土地ニ對シ權利ヲ取得シ集團的ニ農業經營ヲ行ヒ居ルニ反對シ居ル譯ナルカ將來ハ日本人ノ既得權ハ尊重スルモ農業ニ限ラス發展ノ可能性アル鑛業、漁業、海運等ニ付日比人ノ**コーポレーション**ヲ設立事業經營ニ當リ民論ノ反對ヲ緩和スルコト可ナリト思考スト述ヘタリ依テ本使ヨリ邦人カ密林ヲ開拓シ**ダヴァオ**ノ發展ニ貢獻シタルハ比島ニ取り感謝スヘキモノニテ之ヲ排斥スルカ如キハ其ノ意ヲ得ス集團的經營ヲ欲セスト言フモ倉庫、埠頭設備ノ關係上固ヨリ已ムヲ得サル所ナリ**コーポレーション**ハ結構ナルモ新憲法ハ外人ノ持分ヲ四割ニ限定シ居リ實現困難ナルヘシト告ケタル處之ニ付テハ憲法ノ規定變更ハ困難ナルモ便法ナキニモ非サルヘク篤ト考慮スヘシト答ヘタリ

編注一 本報告書の作成者は明記されていないが、出淵大使が起草したと思われる。また、ここでは、前編「一般事務報告」

の「一、濠洲聯邦」から「三、比律賓群島 三、比島政界要人トノ會談 (イ)「ケソン」上院議長」まで収録した。これ以降については、見当たらない。

2 東京市へのオリンピック招致問題

403 昭和10年1月24日 在伊国杉村大使より
広田外務大臣宛(電報)

オリンピック東京誘致には伊国側を説得し同
国の開催希望を断念させる必要があるが副島
伯爵病氣により交渉中断について

付記 昭和九年十二月七日発広田外務大臣より在伊国
杉村大使宛電報第八三号

伊国がオリンピックローマ開催に向け運動宣伝
中である状況下東京市よりのIOCオスロ委員
会へ杉村大使の出張方希望に対し意向照会

ローマ 1月24日後発
本省 1月25日前着

第二〇號

貴電第八號ニ關シ(「オリンピック」東京誘致)

「オスロウ」委員會出席ノ可否ヨリモ伊國側ヲ説得シテ讓
歩セシムルコト先決問題ナリト信シ折角努力シ來レルカ副
島伯爵病氣ノ爲未タ最後ノ話合ヲ付クル運ニ至リ兼ネ居ルニ

付事情御諒察ヲ請フ

(付記)

本省 昭和9年12月7日後5時30分發

第八三號

東京市ニ於テハ御承知ノ通り「オリムピック」誘致委員ト
シテ副島伯爵ヲ明年二月「オスロ」ニ開催ノ「オリムピッ
ク」委員會ニ派遣スルコトニ決定シ同時ニ貴大使ノ「オス
ロ」委員會出席方ノ希望申出アリタル處最近伊太利側ニ
於テモ羅馬ニ開催方ヲ猛烈ニ運動宣傳シ居ル關係モアリ自
然「オスロ」會議ニ於テハ日伊ノ競争トナルベキニ付テ
ハ貴大使ノ貴任國ニ對スル關係モ一應考慮スル必要アリヤ
ニ認メラル就テハ東京市側ヘノ回答ノ都合モアリ右ニ對ス
ル貴見回電アリタシ

404 昭和10年2月8日

在伊国杉村大使より
広田外務大臣宛(電報)

副島伯爵との会見において一九四四年大会のロー
マ開催承認を条件に一九四〇年大会東京開催を支